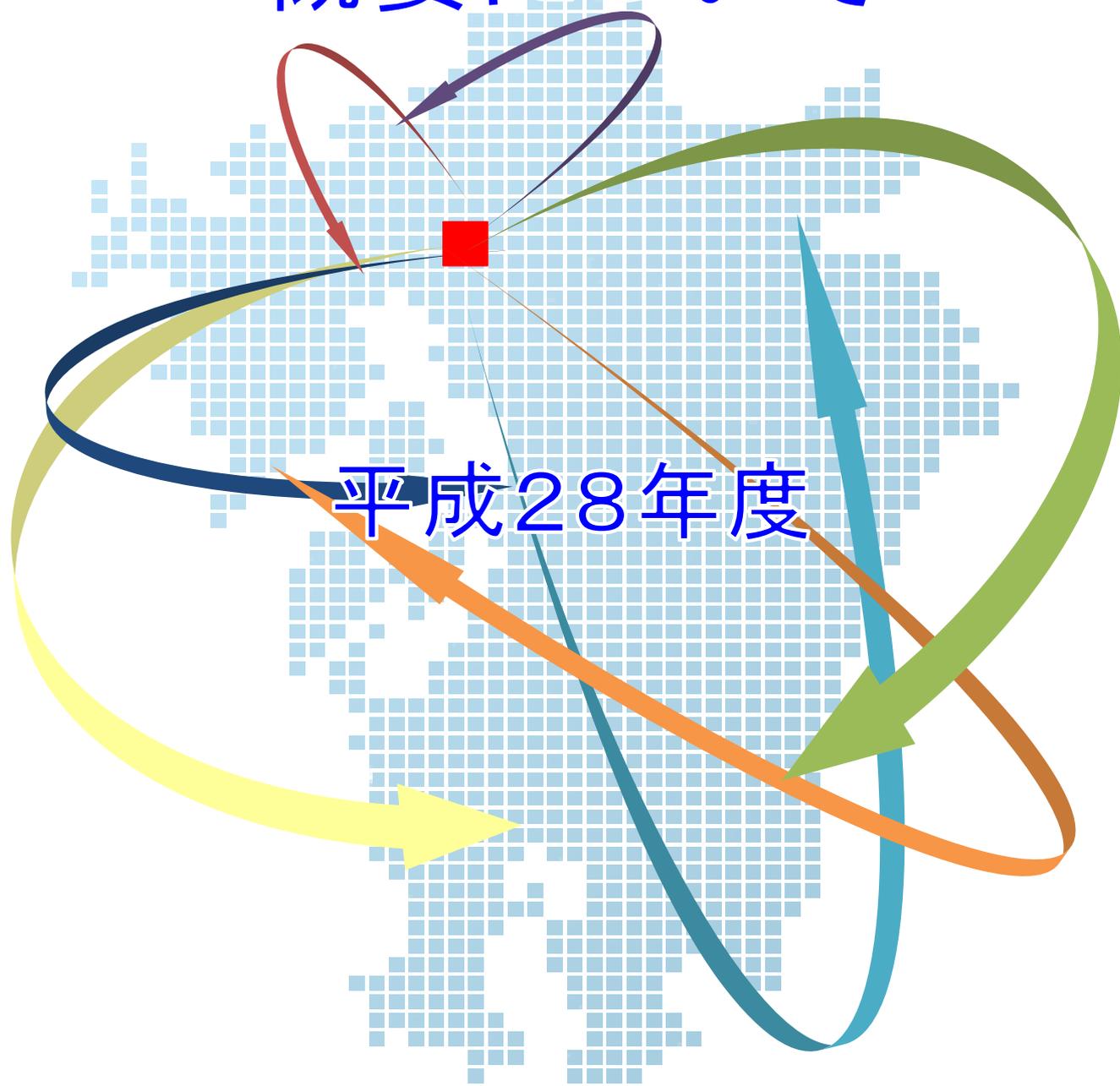




新技術活用システムの 概要について



平成28年度

九州地方整備局
九州技術事務所

◆ 目 次 ◆

○新技術とは	1
○新技術活用の効果	1
○公共工事等における新技術活用システム（概要）	2
○新技術活用システム実施要領改正概要	3
○実施改正のポイント	3
○活用効果調査表の書き方について	6
○NETISの掲載期間	8
○活用の型について	9
○活用効果調査と試行調査	9
○有用な新技術	10
○設計業務における新技術の検討	10
○新技術活用等計画書及び新技術活用効果調査表（報告書）の提出	11
○NETIS登録番号について	11
○九州技術事務所が行っている新技術の業務	12
○九州地方整備局管内の新技術活用状況の推移	12
○九州地方整備局管内の施工者による新技術に関する提案の増加	13
○九州地方整備局管内の活用件数の多い工種	13
○発注者指定型での新技術の活用	14
○九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術（全ての活用型を含む）	15
○九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術（施工者希望型）	21
○九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術（発注者指定型）	26
○九州に登録され九州に本社を置く業者により開発された新技術のうち、 九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術（全ての活用型を含む）	32
○有用な新技術の検索と閲覧方法	40
○活用促進型〔試行〕（概要）	41

◆新技術とは◆

新技術とは

新技術とは、「技術の成立性が技術開発した民間事業者等により実験等の方法で確認されており、実用化している技術であって、当該技術の適用範囲において従来技術に比べ活用の効果が同程度以上の技術又は同程度以上と見込まれる技術をいう。」

新技術の目的

新技術を積極的に活用促進することで、民間事業者等による技術開発の促進、優れた技術創出により、公共事業等の品質確保、良質な社会資本の整備や維持管理、防災対策に寄与することを目指しており、このための仕組みが「新技術活用システム」である。

新技術活用における期待される効果

【発注者】

- コスト縮減を踏まえた工事の発注
- 事業のスピードアップ
- 適切な品質確保
- 維持管理の効率化

【施工者】

- 工事効率化等による工期短縮
- 適切な管理による品質確保
- 省エネルギー、省資源化

◆新技術活用の効果◆

公共工事等に関する優れた技術は、良質な社会資本整備の推進に寄与します。

また、優れた技術を持続的に創出していくためには、新技術を積極的に活用していくことが重要となります。

新 技 術 の 活 用

- ・ 公共工事の諸課題解決
(コスト縮減、品質・安全の確保、環境の保全など)
- ・ 技術力に優れた企業が伸びる環境づくり
- ・ 民間分野での新技術開発に向けた取組み促進

- ・ 豊かな国民生活の実現と安全の確保
- ・ 環境の保全と良好な環境の創出
- ・ 自立的で個性豊かな地域社会の形成

◆公共工事等における新技術活用システム（概要）◆

公共工事等における新技術活用システムは、民間事業者等により開発された有用な新技術を公共工事等において積極的に活用・評価し、技術開発促進をしていくためのシステムです。

公共工事等における新技術活用システム

新技術データベース『NETIS』
Web上で情報提供
<http://www.netis.mlit.go.jp>

技術のスパイラルアップ



開発者

技術開発の改良
技術の開発

実用化

登録

公共工事等に関する、実用化された技術を申請、登録

活用

直轄工事、業務等において、施工条件に適した新技術を活用

事後評価

技術の成立性や活用効果などを総合的に評価

新たな新技術開発者の拡大

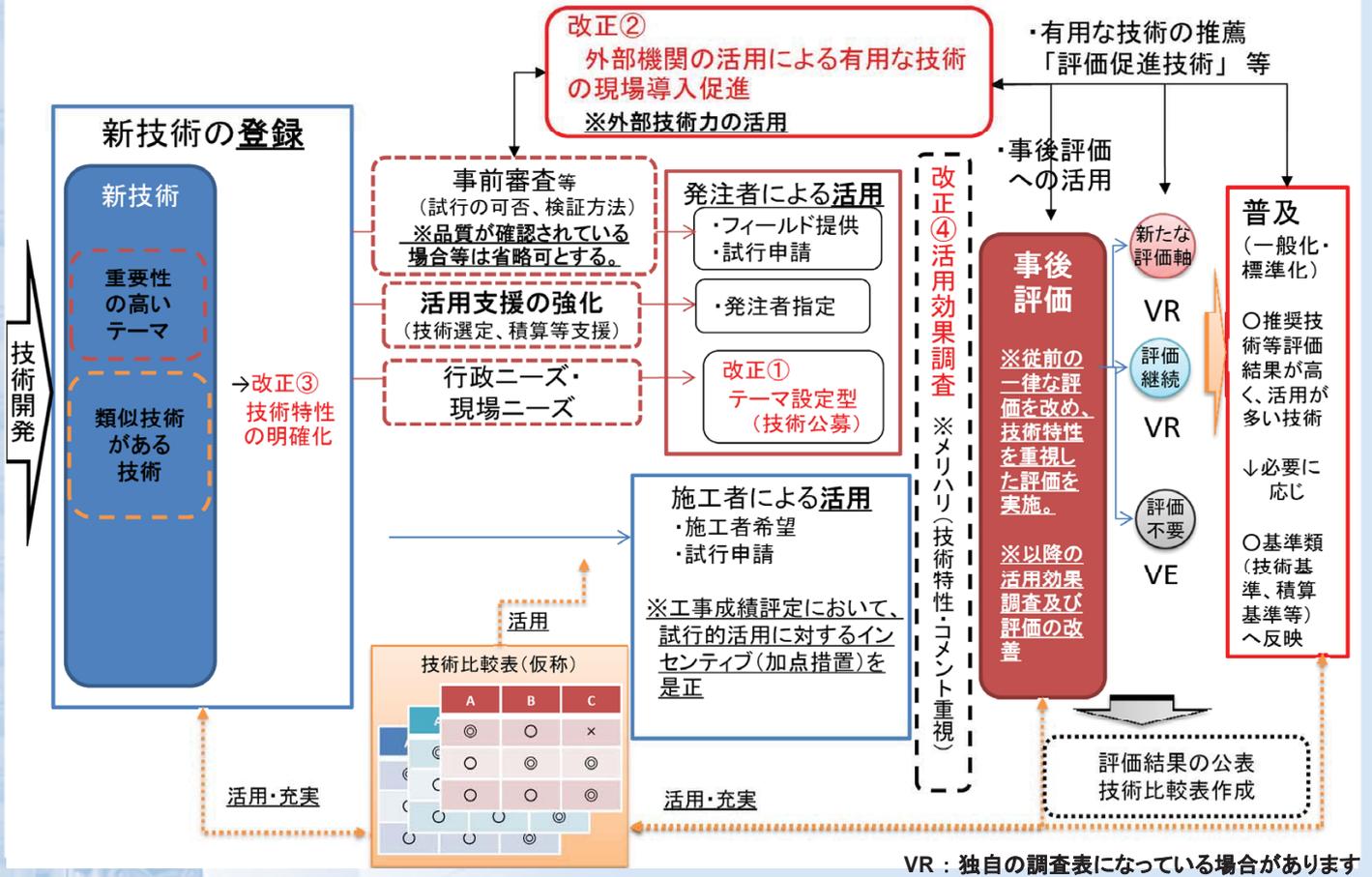


○プロセスと活用方式との関係

設計段階	契約手続き	契約後	施工段階	変更契約	施工完了
発注者指定型 (設計比較検討) ※1 活用促進型[試行] (九州のフィールドに 適応した未評価技術を募集) ※3 フィールド提供型 (テーマを設定し技術募集) テーマ設定型(技術公募) 求める技術募集テーマ等を明確 にしたうえで、技術提案の募集	※2 施工者希望型 (総合評価方式)	※2 ※3 試行申請型 (試行申請技術を発注者が指定)	※2 施工者希望型 (契約後VE、施工承諾)	※2 施工者希望型 (契約後VE、施工承諾)	
※1 活用促進型[試行] 九州地方整備局独自の取り組みとして、九州のフィールドに適応した未評価の新技術を募集し、その技術の中から効果が高いと想定される技術を発注者指定型で活用	※2 インセンティブの付与 ・工事成績加点対象 → 総合評価点方式の技術提案において加点対象	※3 事前審査が必要 事前審査とは、活用前に技術の成立性や、直轄工事等における活用の妥当の確認を行い、NETIS (評価情報)へ登録			

◆新技術活用システム実施要領改正概要◆

(平成26年4月1日から施行)



◆実施改正のポイント 改正1◆

(H26年度改正)

改正1. 「テーマ設定型(技術公募)」の新設

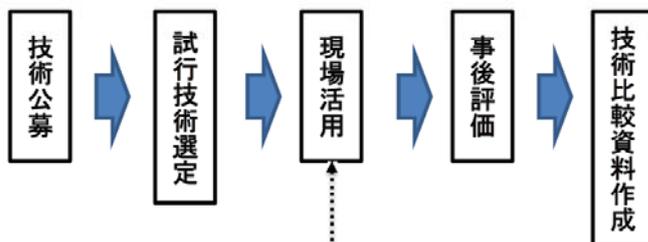
■課題

特定の工種・工法において複数の新技術が登録されているが、特徴(長所、短所)がわかりにくい(特に未活用・未評価技術において)等が原因で、現場での活用が進まない。

■対応

- ・現場ニーズに基づき設定した技術テーマに対し、応募のあった技術を現場で活用、評価することで、新技術の現場導入及び評価の加速化に取り組む。
- ・応募のあった技術について、概ね1年以内に原則1件以上活用・評価。評価結果に基づき、今後の技術選定に活用するための技術比較資料を策定。

技術公募の流れ



技術比較結果を、現場での活用に反映

技術比較資料(例)

	技術 A	技術 B	技術 C
経済性	◎	○	×
工程	○	◎	◎
施工性	○	○	◎
...	◎	×	○

◆実施改正のポイント 改正2◆

(H26年度改正)

改正2. 外部機関の活用による有用な技術の現場導入促進

■課題

NETIS登録技術については、国土交通省発注工事における実績に基づき事後評価(評価済み技術1,120、全体の約24%)されており、地方公共団体等の実績、評価が反映されないなど非効率(H26.1時点)。

■対応

- ・関係研究機関又は第三者機関等に加え、新たに地方公共団体等からの推奨技術等推薦受け入れ等を行うことで有用な新技術の現場導入を促進。
- ・新たに「評価促進技術」を設定し、外部機関より推薦のあった技術の活用、評価を促進することで有用な新技術の現場導入を促進。

推奨技術等推薦方法

実施主体	現状		H26以降	推奨技術	準推奨技術	評価促進技術
①評価会議	有用な技術(「設計比較対象技術」「少実績優良技術」「活用促進技術」)から推薦	→	有用な技術(「活用促進技術」)等から推薦	現行通り	現行通り	-
②第三者機関	建設技術審査証明を取得しており、近年、NETISにおいて活用・評価された技術	→	・建設技術審査証明や港湾関連民間技術の確認審査・評価等を取得しており、近年、NETISにおいて活用・評価された技術 ・学会についても検討	現行通り(強化)	現行通り(強化)	新規
③研究機関	事前審査等を行い、近年、NETISにおいて活用・評価された技術	→	・事前審査等を行い、近年、NETISにおいて活用・評価された技術 ・自機関(共同開発含む)で開発・評価した技術	現行通り(強化)	現行通り(強化)	新規
④地方公共団体等	現在無し	→	特定の条件を満たした技術 例: NETIS同様の制度を有し、活用・評価された技術	-	新規	新規

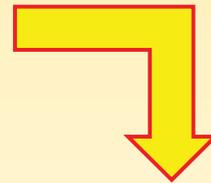
他機関との連携について

【各技術のトップページ】

国土交通省 日本大通	国土技術 開発局	建設技術 審査証明 ※	他機関の 評価結果 有
技術名称	〇〇〇〇〇〇工法		事後評価済み技術 (2010.04.21)
登録No.	AA-000000-V		
事前審査	技術の位置付け(有用な新技術)		
事後評価	活用効果評価	推奨技術	評価促進技術
試行実証評価	活用効果評価	準推奨技術	活用促進技術
有	有	有	有
活用効果調査入力様式		適用期間等	

【他機関の評価結果】の閲覧機能を追加

「有」をクリックすると、下記のページに移動



【評価情報のページ】

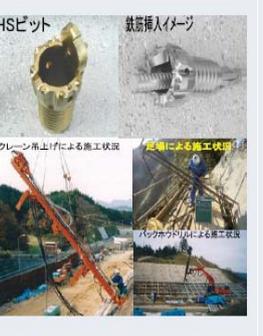
NETIS 新技術情報提供システム New Technology Information System		
NETISとは 新技術の検索 新技術の最新情報 新技術の申請方法 NETISのRSS配信 サイトマップ		
活用効果評価一覧		
登録番号: AA-000000-V 新技術名称: 〇〇〇〇〇〇工法		
評価回数	活用効果評価ファイル	更新日
1回目	内容確認	2010/04/21
＜参考情報＞ 他機関の評価結果		
評価機関名	活用結果など	更新日
〇〇県	http://www.〇〇〇.jp	2015/05/12
〇〇県	http://www.〇〇〇.jp	2015/05/12

他機関のサイト(評価情報ページ等)のリンクを掲載

他機関との連携について

・外部機関より推薦された技術の中から「評価促進技術」を選定（平成28年度）。

評価促進技術概要一覧

1	2	3	4	5
CB-110016-A(平成28年度)	KT-130093-A(平成28年度)	KT-980496(平成28年度)	CG-100001-A(平成28年度)	CG-100002-A(平成28年度)
NSエコスパイラル (副題)明確な支持層が出てこない地盤に適した無排土・回転杭工法	斜面崩壊検知センサー「感太郎」 (副題)土砂災害の警報避難支援のための斜面崩壊検知システム	RASコラム工法 (副題)大口径機械攪拌深層混合工法	HS工法 (副題)非自立性地山単管削孔工法	フレキシブル側溝 (副題)自在に角度調整ができる側溝
本工法は、広範囲にスパイラル形状の羽根を設けた鋼管杭を小型杭打機等により地中へ回転貫入する回転杭工法である。羽根と地盤が一体挙動し、鋼管径よりも大きな羽根外径で周面抵抗を発揮するため、中間層でも所定の支持力が得られるものである。	本技術は、省電力MEMS傾斜センサー、土壌水分計、内蔵無線端末を利用した技術で、従来は、地盤傾斜計で対応していた。本技術の活用により斜面監視と自動化ができ、斜面崩壊を面的に把握でき、土壌水分・傾斜変位を相互照合で精度と安全性の向上が期待できる。	削孔攪拌機構が内管と外管が互いに正逆に回転する2重管構造であるため、高品質で均質性に優れた改良体が確保できる。また、高トルクのオーガを使用しているため最大改良径2500mmの施工が可能であり、改良本数を低減でき経済性に優れている技術である。	片開き開閉構造のビット(HSビット)を削孔管先端に取り付け、単管削孔工法とすることによりインナー管の引き抜き工程を省き、鉄筋挿入工における従来の品質を維持しつつ、安全性・施工性・経済性・工期短縮の各々を向上させる技術である。	フレキシブル側溝は、カーブやコーナー部において自在に角度調整ができる側溝で、施工精度、作業環境、及び、品質の向上が図れます。フレキシブル側溝には、現状、自由勾配側溝タイプと函渠型側溝タイプの2タイプがあります。
				

◆実施改正のポイント 改正3◆ (H26年度改正)

改正3. 登録申請時の技術特性の明確化

■課題

登録しても評価まで至らない新技術(約3,600件,全体の約76%)の多くは、従来技術(※)や既NETIS登録技術(類似技術)と比べて、技術の特徴がわかりにくい等が原因で活用に至っていない(H26.1時点)。(※)従来技術:公共工事等において標準的に使用され、標準積算の対象となる技術等

■対応

登録申請時に、以下のように改正

- ・適正な従来技術の設定(妥当性を示す根拠資料の提示)
- ・従来技術に加え、既NETIS登録技術(類似技術)との比較
- ・技術特性に応じ、新たな評価項目の追加

登録申請時における従来技術や類似技術との比較(例)

	新技術(Z工法)	従来技術(A工法)	類似技術(B工法)
NETIS番号	CB〇△-A	-	KT〇〇-V
改良深度	50m以内	50m以内	50m以内
経済性	120	100	95
工程・工期	80	100	110
品質	◎・・・	○・・・	◎・・・
出来形	◎・・・	○・・・	◎・・・
環境負荷	○・・・	○・・・	△・・・
安全性	◎・・・	○・・・	○・・・

◎:従来技術より優れている、○:従来技術と同程度、△:従来技術より劣る、・・・は文字による解説

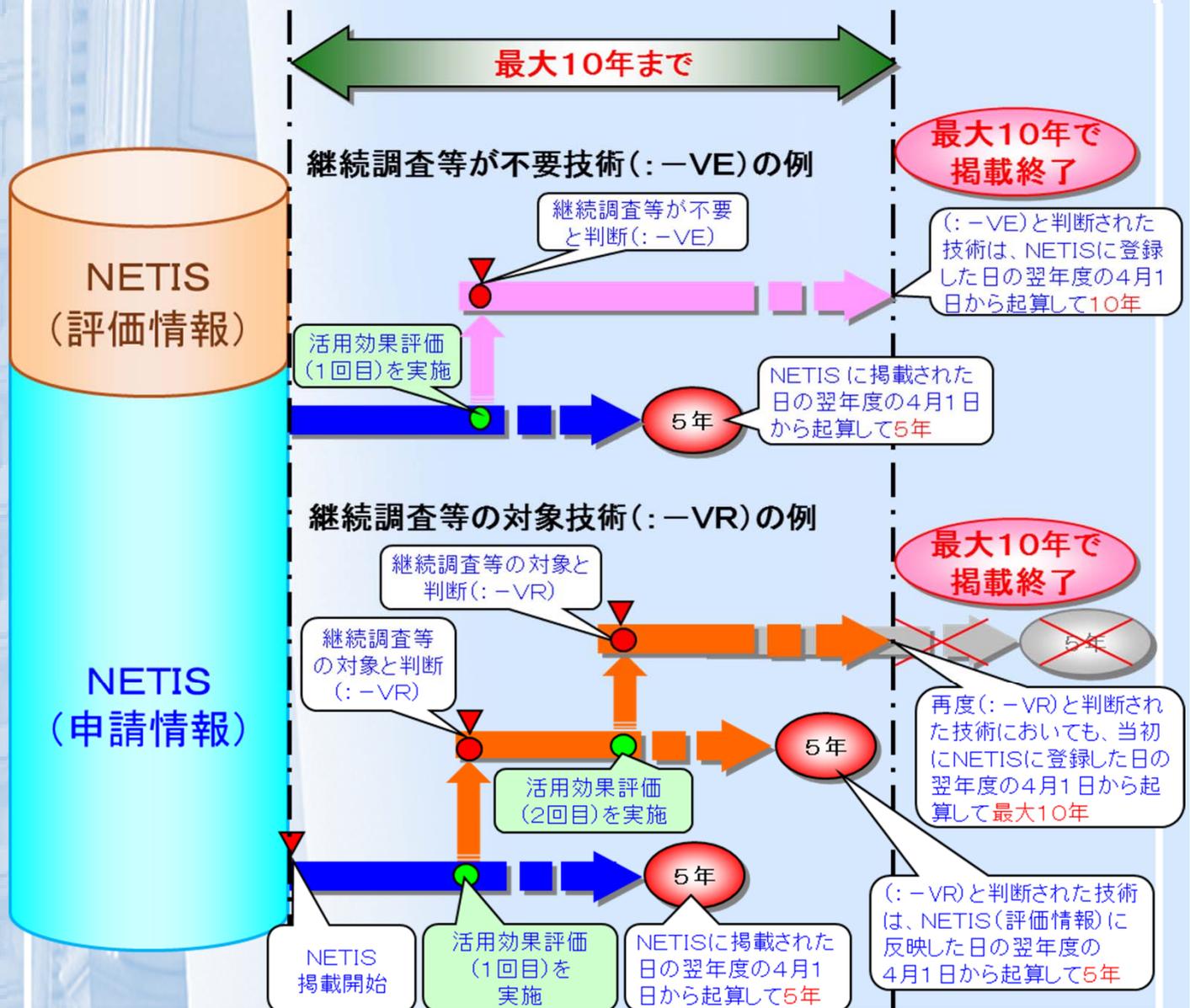
◆ NETISの掲載期間 ◆

◆『公共工事等における新技術活用システム』実施要領に基づく申請書類の審査を実施し、確認出来た新技術についてNETISへ登録

◇NETISへの掲載期間は、NETISに掲載された日の翌年度の4月1日から起算して5年を経過した日までとする。

◇活用効果評価で（：-VE）と判断された技術は、当初にNETISに登録した日の翌年度の4月1日から起算して10年を経過した日までとする。

◇活用効果評価で（：-VR）と判断された技術は、NETIS（評価情報）に反映した日の翌年度の4月1日から起算して5年を経過した日までとする。ただし、2回目以降の活用効果評価で（：-VR）と判断された技術においても当初にNETISに登録した日の翌年度の4月1日から起算して最大10年を経過した日までとする。



◆活用の型について◆

発注者指定型

発注者がこの新技術を使うように！ という場合

現場ニーズ等により必要となる新技術を対象に、**発注者の指定**により活用し、活用効果調査を行うタイプ

活用促進型〔試行〕

九州地方整備局独自の取り組みとして、九州のフィールドに適応した未評価の新技術を募集し、その技術の中から効果が高いと想定される技術を発注者指定型で活用する場合

民間から新技術を募集し、選考した技術を活用し、活用効果調査及び詳細調査を行うタイプ

施工者希望型

施工者(受注者)から契約前・契約後にこの技術を使いたいと提案があった場合

施工者(受注者)からの提案に基づき、新技術を活用し、活用効果調査を行うタイプ

試行申請型

開発者の申請により試行現場を照会し、活用を行う場合

技術の成立性等を事前に審査し、**申請者(技術開発者)からの申請**により試行現場を照会し、試行調査及び活用効果調査を行うタイプ

フィールド提供型

発注者がニーズにあった新技術を募集し、その技術の中から効果が高いと想定される技術を使ってみようという場合

民間から新技術を募集し、選考した技術を活用し、試行調査および活用効果調査を行うタイプ

テーマ設定型(技術公募)

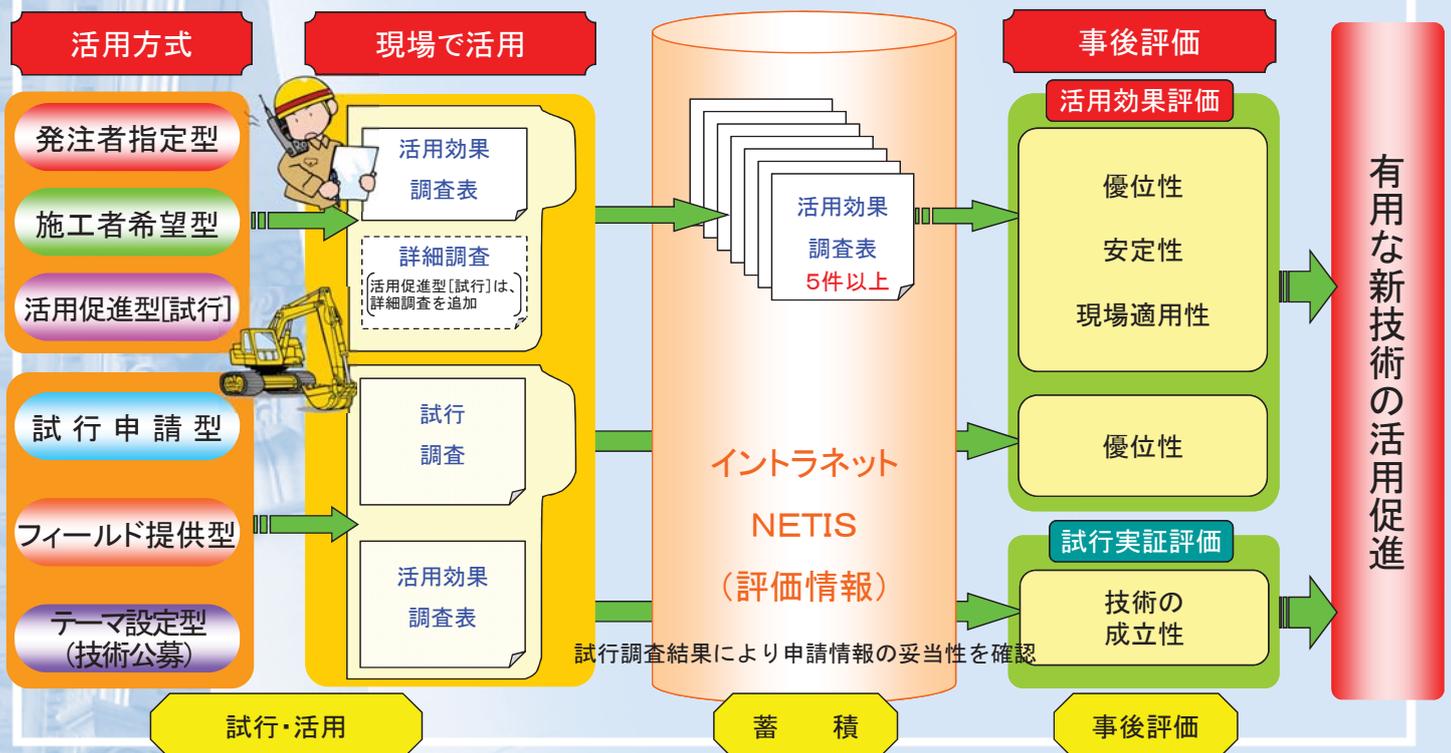
直轄工事等における現場ニーズ・行政ニーズ等により、求める技術募集テーマ等に基づき、民間事業者等から技術提案の募集を行い活用する場合

民間から新技術を募集し、応募されたNETIS登録技術を対象に活用を行い、試行調査および活用効果調査を行うタイプ

◆活用効果調査と試行調査◆

試行・活用時には試行調査・活用効果調査を行います。

- ・発注者指定型、施工者希望型、活用促進型〔試行〕：活用効果調査を5件以上蓄積 → 事後評価
- ・試行申請型、フィールド提供型、テーマ設定型(技術公募)：試行調査、活用効果調査 → 1件だけで事後評価



◆ 有用な新技術 ◆

指定の区分

技術の定義

推奨技術

・公共工事等に関する技術の水準を一層高めるために選定された画期的な新技術

準推奨技術

・上記の推奨技術と位置づけるためには更なる発展を期待する部分がある新技術

評価促進技術

・他機関等の実績に基づき、公共工事等に関する技術水準等を高めることが見込める技術

活用促進技術

・総合的に活用の効果が優れている技術
 ・特定の性能又は機能が特に優れている技術
 ・特定の地域のみで普及しており、全国に普及することが有益と判断される技術
 ・その他評価会議が選考し指定する技術

平成26年4月1日より、従来の「活用促進技術」、「設計比較対象技術」、「少実績優良技術」を「活用促進技術」に統合

一般化・標準化技術

・公共工事等で使用する技術指針等に示される技術
 ・公共工事等の施工に当たり、一般的に選択し、活用されている技術
 ・その他システム検討会議が一般化・標準化に位置付けるべき新技術として判断する技術

※従来の実施要領により有用な新技術に位置付けられていた新技術について、NETIS 申請者は、「少実績優良技術」「設計比較対象技術」「〇〇年度活用促進技術（新技術活用評価会議（〇〇整備局）」）」「〇〇年度 推奨技術」又は「〇〇年度 準推奨技術」という名称を使用できる。

設計比較対象技術

・優位性が高く安定性が確認されている技術（従来の実施要領により決定されている技術は当該名称を使用できる）

少実績優良技術

・優位性は高いが、実績の少ない技術（従来の実施要領により決定されている技術は当該名称を使用できる）

◆ 設計業務における新技術の検討 ◆

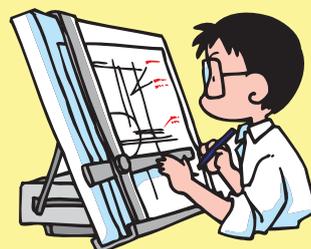
● 設計業務等共通仕様書(案)【平成27年3月11日】

第2章 設計業務等一般

第1209条 設計業務の条件

12. 受注者は、概略設計又は予備設計における比較案の提案、もしくは、概略設計における比較案を予備設計において評価、検討する場合には、**新技術情報提供システム（NETIS）**等を利用し、**有用な新技術・新工法を積極的に活用するための検討を行うものとする。**

また、受注者は、詳細設計における工法等の選定においては、**新技術情報提供システム（NETIS）**等を利用し、**有用な新技術・新工法を積極的に活用するための検討を行い、調査職員と協議のうえ、採用する工法等を決定した後に設計を行うものとする。**



◆新技術活用等計画書及び新技術活用効果調査表（報告書）の提出（九州地方整備局）◆

新技術を使うと「計画書」「調査表（一部除く）」の提出が義務付けられています。

工事特記仕様書（総則）

- 総則
第条 新技術の活用にあたって
1. 受注者は「公共工事等における新技術活用システム実施要領」（平成26年3月28日付国官総第345号、国官技第320号、国官施第17号及び国総公第141号）、「新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書の実施規約」に基づき、監督職員の確認を受けた新技術（NETISに登録または登録申請された技術に限る）の活用を行うことができる。
 2. 受注者は、新技術（NETISに登録または登録申請された技術に限る）を活用する際は、監督職員と事前に協議し、活用することになれば、新技術活用効果調査表を監督職員に提出しなければならない。
 3. 受注者の提案した新技術を施工することにより設計図書（工事事務の性能等）に変更が生じる場合は、監督職員と協議のうえ設計変更の対象とする。
 4. 当該技術の施工にあたっては、本特記仕様書によるほか「公共工事等における新技術活用システム実施要領」に留意するものとする。
 5. 新技術の施工にあたって不具合又は疑義が生じた場合は、監督職員に速やかに報告し協議を行うものとする。
 6. 受注者は本工事によって知り得た当該技術に係る情報を、監督職員の許可なく公表してはならない。
 7. 新技術に関するインターネットアドレス等は、以下のとおりである。
 - 1) 新技術情報提供システム（NETIS）
<http://www.netis.mlit.go.jp>
 - 2) 公共工事等における新技術活用システム実施要領
http://www.netis.mlit.go.jp/NetisRev/Download/youryou_besshi_20140328.pdf
 - 3) 新技術活用効果調査表（新技術活用等計画書・新技術活用実施報告書）について
http://www.qsr.mlit.go.jp/kyugi/site/files/new_tech/portal/katsuyou/sinkatuyou.xls
 - 4) 請負工事成績評定要領について
<http://www.mlit.go.jp/tec/sekisan/sekou.html>
 - 発注者指定型において新技術を活用する場合、下記事項を追加する。
 8. 本工事は、「発注者指定型」により下記新技術を活用する工事である。
技術名 ○○○工法
NETIS番号 ○○-○○○○○○
 9. 現地の条件等により当該技術に係る変更が生じる場合は、監督職員と協議のうえ設計変更の対象とする。



工事特記仕様書（施工管理）

- 第章 施工管理一般
- 第条 品質管理については、「土木工事施工管理基準」により、本工事に該当する項目及び件数を決定し、実施するものとする。
- 第条 施工計画の策定にあたっては、付近住民の生活環境を侵すことのないよう施工方法、使用機械、工事材料等を十分検討しなければならない。
- 第条 着工前測量成果
受注者は、着工前測量にあたり近接する他の工事がある場合は、その標高及び座標と照合し、確認した後に着工前測量成果簿を監督職員に提出するものとする。
また、本工事に品質証明員を配置する場合には、品質証明員の確認証明書も着工前測量成果簿に添付し、監督職員に提出するものとする。
- 第条 工事竣工までに、下記図書を整理し、提出するものとする。
1. 出来形管理資料 …… 出来形管理図、写真管理資料
 2. 品質管理資料 …… 品質管理図
 3. 建設材料の品質記録保存資料 [土木工事施工管理の手引(工事書類簡素化編平成21年11月)による]
 4. 道路施設基本データ [道路施設基本データ作成特記仕様書による]
 5. 道路台帳附図(1/500)
 6. 完成図
 7. 河川GIS用台帳 [河川GIS用台帳作成特記仕様書による]
 8. 新技術活用効果調査表(新技術・新工法を採用した場合)
 9. その他監督職員の指示した資料
- 第条 施工体制台帳
施工体制台帳の提出及び名札の着用等については、土木工事共通仕様書第1編1-1-10によるものとする。なお、施工体制台帳には監理技術者、主任技術者(下請負を含む)及び元請負の専門技術者(専任している場合のみ)の顔写真、氏名、生年月日、所属会社名を記載した様式を追加しなければならない。
- 第条 工事環境に対する計画
工事の施工に際しては、粉塵、濁水、騒音、振動、交通障害等により地域住民との摩擦、トラブルを極力防止するよう綿密な検討を施工計画書作成時に行うものとする。
- 第条 疑義事項の処理
受注者は、工事契約後速やかに必要な測量を実施し、契約図書と現地に差異並びに特記仕様書に疑義が生じた場合は、原則として書面で監督職員と協議し適切な処理を行わなければならない。

◆NETIS登録番号について◆

登録地整 登録年度 順番

QS - 16 0001 - A or V or VR or VE

事前審査

「試行申請型」、「フィールド提供型」、「テーマ設定型（技術公募）」（事後評価未実施技術の場合、必要に応じて実施）、の場合又は発注事務所からの依頼があった場合、申請情報等に基づき技術の成立性や直轄工事等における活用の妥当性を確認する審査のことをいう。

登録地整

- | | |
|--------------|-----------|
| QS : 九州地整 | KT : 関東地整 |
| SK : 四国地整 | HR : 北陸地整 |
| CG : 中国地整 | TH : 東北地整 |
| KK : 近畿地整 | CB : 中部地整 |
| HK : 北海道開発局 | |
| OK : 沖縄総合事務局 | |

※ 3桁目に「K」がついているものは、「港湾NETIS」の登録技術
例: QSK、KTK

2桁は「建設NETIS」の登録技術

情報種別

A: Application(アプリケーションの頭文字) = 申請
申請情報のみ掲載されている技術
(評価されていない技術)

V: Value(バリュウの頭文字) = 評価
申請情報に対する評価情報が掲載されている技術
(評価され継続調査等の技術)

VR: ("Re"の頭文字)
活用効果評価を実施した技術のうち継続調査等の対象となった技術
(評価され継続調査等の技術)

VE: ("End"の頭文字)
活用効果評価を実施した技術のうち継続調査等の対象としない技術
(評価されて継続調査等なしの技術)

事後評価

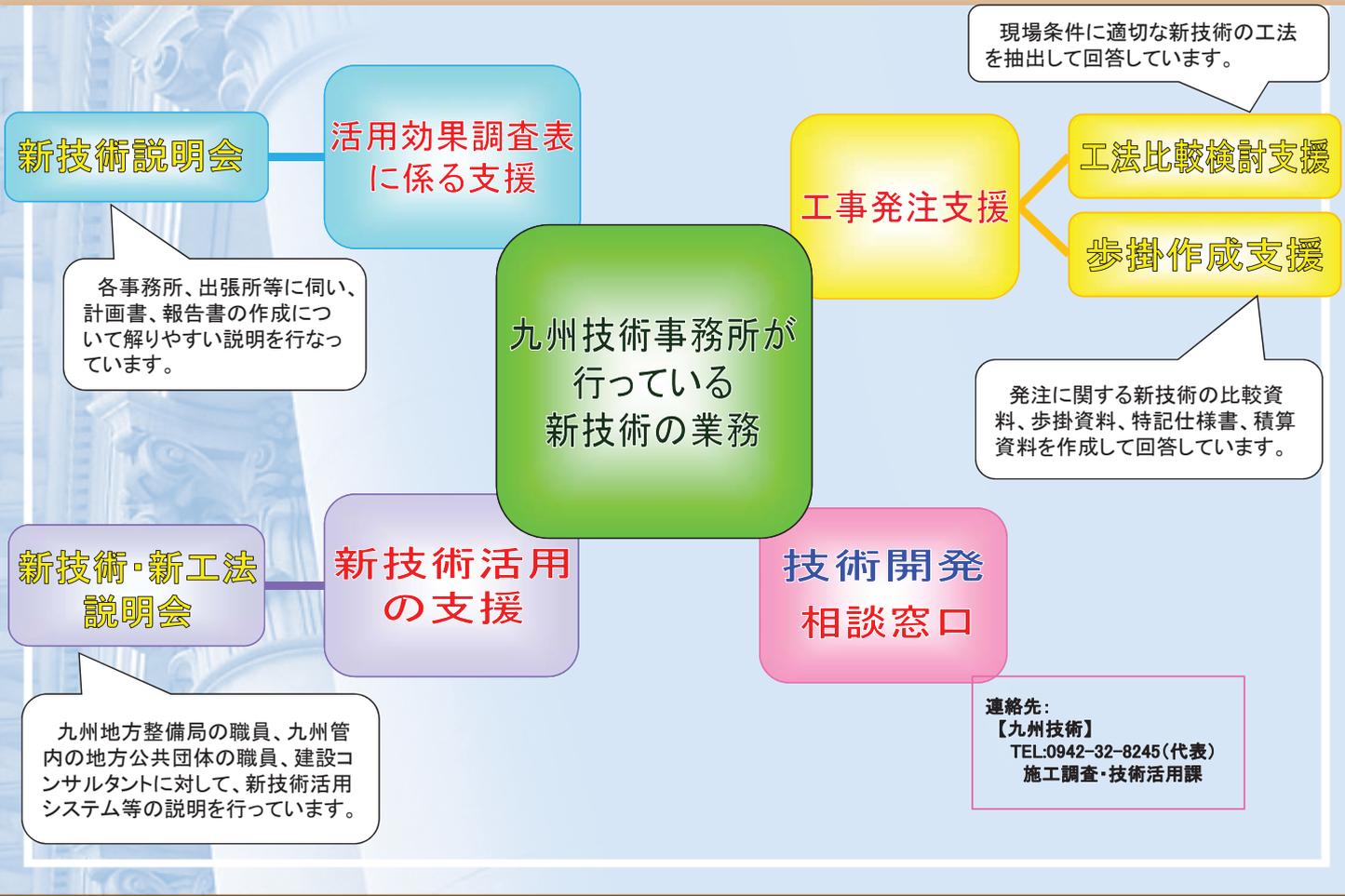
活用後に技術の成立性や活用効果などを総合的に評価することをいう。

試 行 実 証 評 価

活 用 効 果 評 価

継続調査等の対象 継続調査等の対象外

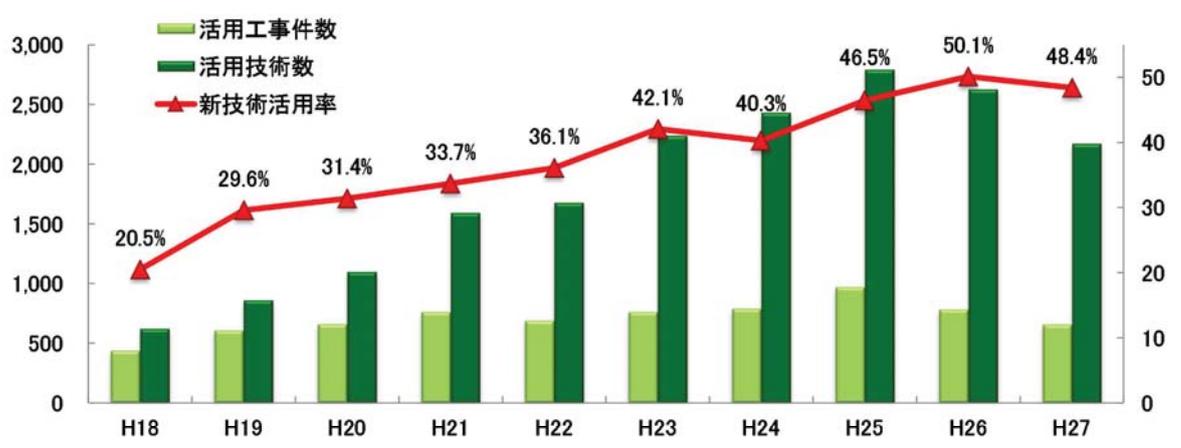
◆ 九州技術事務所が行っている新技術の業務 ◆



◆ 九州地方整備局管内の新技術活用状況の推移 ◆

- 新技術活用率(新技術を活用した工事件数を総工事件数で除したものは、平成27年度では昨年度に次いで過去2番目の48.4%となりました。
- 新技術活用工事件数※1は平成25年度に900件を突破しましたが、平成27年度は659件に留まりました。
- 活用延べ新技術数は平成25年度に2,700件を突破しましたが、平成27年度は2,172件に留まりました。

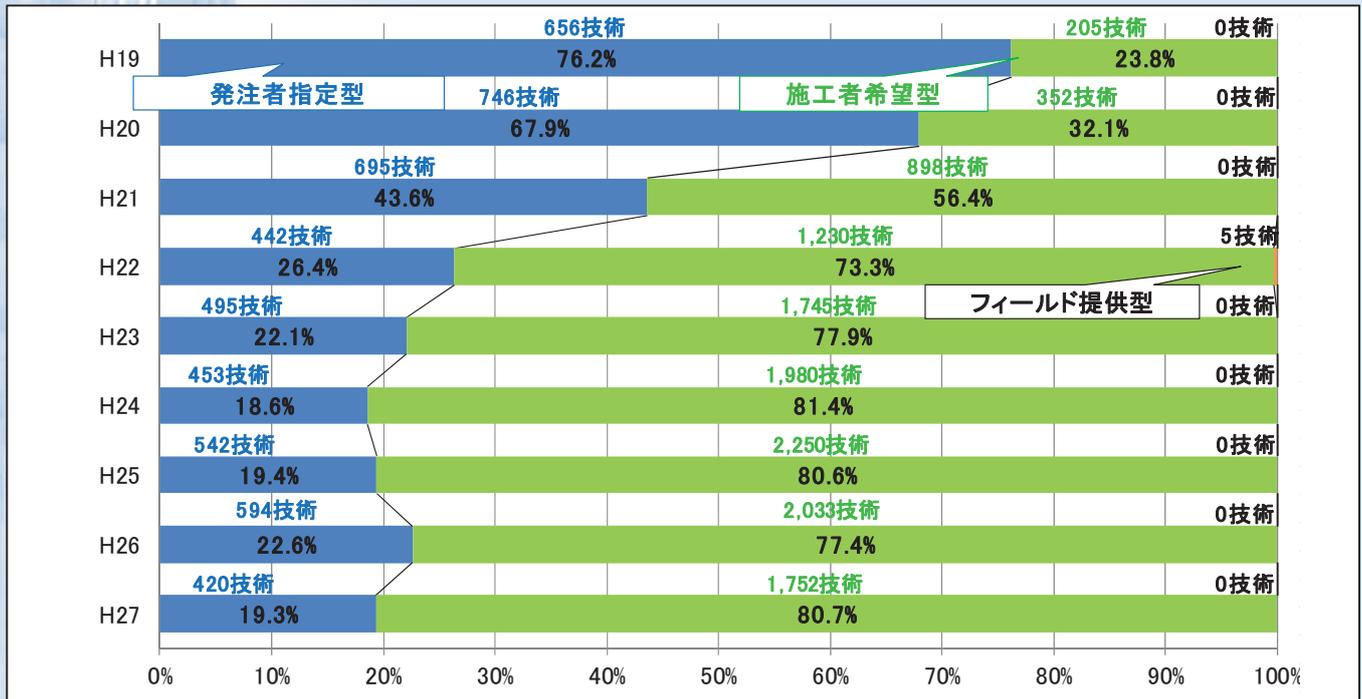
※1 新技術活用工事件数とは、新技術を1件以上活用した工事の件数



	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
九州										
総工事件数	2,147	2,054	2,107	2,264	1,913	1,816	1,961	2,092	1,566	1,362
活用工事件数	440	609	661	764	690	764	790	972	785	659
活用技術数	622	861	1,098	1,593	1,677	2,240	2,433	2,792	2,627	2,172
新技術活用率	20.5%	29.6%	31.4%	33.7%	36.1%	42.1%	40.3%	46.5%	50.1%	48.4%
1活用工事当たりの活用技術数	1.4	1.4	1.7	2.1	2.4	2.9	3.1	2.9	3.3	3.3

◆九州地方整備局管内の施工者による新技術に関する提案の増加◆

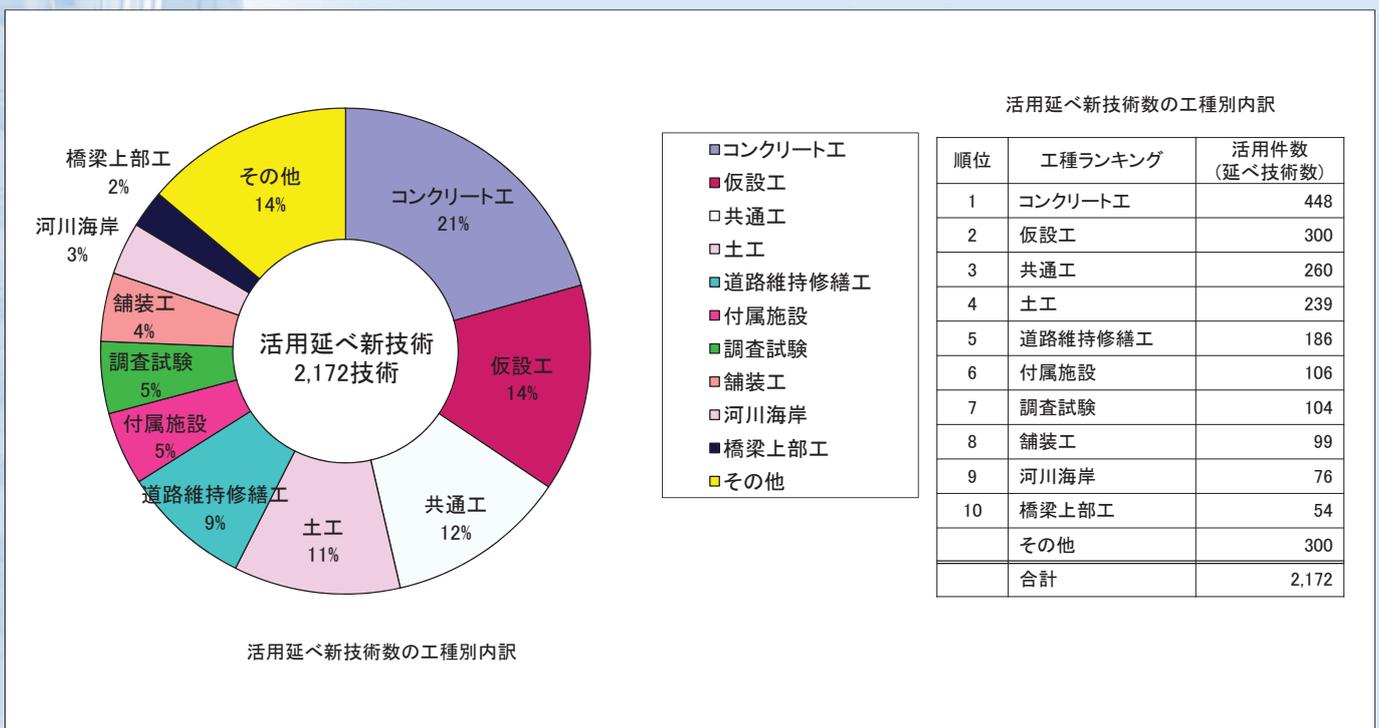
- 新技術の活用には大きく分けて4つの型※2があります。
各年度の活用延べ新技術数を活用型別にみると、以下の通りです。
「発注者指定型」に比べ「施工者希望型」の割合が多くなっています。



※2 「公共工事における新技術活用システム」の新技術の活用型には、以下の4つがある。
 ●**施工者希望型**: 入札契約の総合評価方式における技術提案又は契約締結後における施工者からの技術提案申請に基づき、施工者が新技術を活用する型。
 ●**発注者指定型**: 直轄工事における現場ニーズ、行政ニーズにより必要となる新技術を発注者の指定により活用する型。
 ●**試行申請型**: 事後評価未実施技術を対象に、NETIS申請者の試行申請に基づき試行を行う型。
 ●**フィールド提供型**: 現場ニーズ等により、各地方整備局等により、各地方整備局等がNETIS申請者から新技術提案の募集を行い、フィールドを提供し、活用する型。

◆九州地方整備局管内の活用件数の多い工種◆

- 新技術活用件数の工種別内訳は下記のとおりです。
平成27年度において、活用延べ新技術数2,172件のうち、もっとも多くの新技術が使われた工種は、「コンクリート工」でした。
次いで、「仮設工」、「共通工」、「土工」、「道路維持修繕工」、の順に、多く活用されていました。



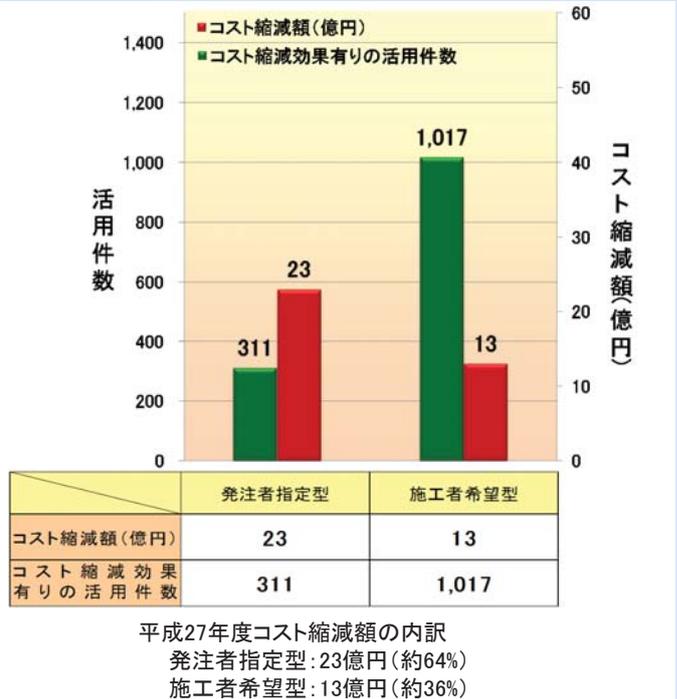
◆発注者指定型での新技術の活用◆

- 発注者指定型で活用される新技術は、工法等工事の基幹となる技術が多い
- 平成27年度は、36億円のコスト縮減効果

「発注者指定型」として活用された新技術BEST5

順位	技術名	概要
1	スーパーテールアルメ工法	補強部材の最適配置と壁面部材の大型化を実現した補強土壁工法
2	ガードレール・ガードパイプ 自在R連続基礎ブロック	カーブに対応できるガードレール及びガードパイプ用プレキャスト連続基礎
2	改良芝品種「エルトロ」・「ピクトール」を用いたロール芝工法	維持管理コストを抑えた上での良質なターフが形成可能な工法
4	抵抗板付鋼製杭基礎 (ポールアンカー100型)	軟弱地盤や狭隘な場所、または、埋設物を避けての道路標識柱や道路照明柱の基礎を構築可能な工法
5	硬質地盤クリア工法	硬質地盤への矢板・杭の静的圧入が可能な工法
5	MMA点字タイル	路面掘削が不要で路面に直接固着できる視覚障害者用誘導点字タイル

経済性効果(コスト縮減額平成27年度)



※上表の数値は、新技術活用等計画書受付年度で整理した値
 ※港湾・空港工事を含まない

◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆ (全ての活用型を含む)

●平成27年度の活用延べ新技術数2,172件のうち、活用件数上位39技術の新技術は以下のとおりです。

活用件数の多い新技術(平成27年度)

順位	NETIS登録番号	技術名	副題	工種	有用な技術 (平成28年6月末現在)
1	KT-070054-VE	ジョイントテックスCT-400	洗い出し不要の打ち継ぎ処理剤	コンクリート工	活用促進技術
2	KT-060150-VE	3次元設計データを用いた計測及び誘導システム	計測及び誘導システム	調査試験	準推奨技術
3	CB-100037-VE	軽トラック積載対応型屋外可搬式トイレユニット	車載トイレ	仮設工	
4	CB-080028-VE	とまるくん(普通車用)・(大型車用)	道路工事現場での車両進入によるもらい事故防止。	道路維持修繕工	
5	KT-090046-VE	法面2号ユニバーサルユニット自在階段	ユニット型昇降設備	仮設工	推奨技術 設計比較対象技術
6	KT-010018-VR	Tヘッド工法鉄筋	過密鉄筋の施工性改善	コンクリート工	
7	KT-140091-A	インテリジェントマシンコントロール油圧ショベル	機体制御とICTの技術を活用したセミオート制御機能搭載油圧ショベル	土工	
8	KK-990050-VE	ディスプレイ(CR、ER、DV、DV-S)	コンクリート打継目処理剤	コンクリート工	
8	KT-990421-V	3次元マシンコントロールシステム3D-MC	建設機械制御システム	土工	
8	KT-100006-V	転圧管理システム GEO-PRESS (ジオプレス)	TSやGPSを用いた、盛土工事における締り回数管理を行うシステム	土工	
11	KT-150006-A	脂肪族系鉄筋防錆剤「サビラーズ」「ハイサビラーズ」	コンクリートとの付着を阻害しない鉄筋の防錆剤	コンクリート工	
12	KK-980055-VE	キャスポル	簡易支持力測定器	調査試験	準推奨技術
12	KK-100077-VE	EX-TREND武蔵 建設CAD	本技術は、切土・盛土などの数量を自動で取得でき、集計表や塗り潰しなども簡単に行うことができるため作業効率の向上が期待できる。	CALS関連技術	
12	KT-110001-VE	ブリード・ボンド工法	コンクリート打継処理工法	コンクリート工	活用促進技術
15	CG-080014-VE	トリガージョイント	止水性能を有するコンクリートひび割れ誘発目地材	コンクリート工	活用促進技術
15	KK-100021-VE	ソーラー式LED表示機	ソーラー充電式バッテリーによるLED文字・映像表示装置	その他	設計比較対象技術
15	QS-110023-V	移動式ネットワークカメラ「モニタリングミックス」	簡単に移動ができるネットワークカメラ、遠隔操作で広範囲をリアルタイムの動画で見れるシステム	電気通信設備	設計比較対象技術
18	TH-090016-V	超低騒音仕様油圧ブレードを用いた解体・掘削工法	SS-boxの開発による超低騒音化、低振動化の実現	共通工	活用促進技術(旧)
18	CG-110011-VE	後方監視カメラ搭載油圧ショベル	運転席右前方のモニター画面で後方の安全確認ができ、ヘッドガード一体型キャブを搭載した油圧ショベル	土工	
20	SK-080001-VE	塗布型高性能収縮低減剤「クラックセイバー」	コンクリート表面収縮低減、水分逸散抑制によるコンクリート構造物のひび割れ抑制技術	コンクリート工	活用促進技術
20	SK-080003-VE	コンクリートひび割れ低減用ネット「ハイパーネット60」	耐アルカリ性ガラス繊維ネットを用いたコンクリート構造物のひび割れ低減技術	コンクリート工	活用促進技術
20	TH-100008-V	TS・RTK-GPSによる転圧管理システム(GPRoller)	TS・RTK-GPSを用いた締り機械の転圧管理システム	土工	
20	KT-100078-V	ソーラーキングシリーズ	太陽光を利用して2色のLEDを点滅させ、歩行者や運転者等に警告を発するソーラー式工事灯	仮設工	
20	CB-110014-VE	コンクリート保水養生テープ	コンクリート表面の緻密化と強度向上に寄与するテープ	コンクリート工	
25	CB-050040-VE	ガードレール・ガードパイプ 自在R連続基礎ブロック	ガードレールカーブ対応型連続基礎	付属施設	活用促進技術
25	QS-060012-VE	スーパーテールアルメ工法	補強部材の最適配置と壁面部材の大型化を実現した補強土壁工法	共通工	
25	TH-070005-VE	カプセルブリズム型高輝度路上工事用標示板(工事看板)	路上工事用標示板向けカプセルブリズム型高輝度再帰反射シート	仮設工	
25	KT-070038-VE	MMA点字タイル	視覚障害者誘導用MMA樹脂製点字タイル	付属施設	活用促進技術
25	HK-100045-V	グレードコントロールシステム	建設機械に取り付けたセンサからの情報を組み合わせ、2D/3Dの設計データを参照しながら建設機械のコントロールやガイダンスを行い、敷出し・法面整形工・舗装工等を行う	共通工	活用促進技術(旧)
30	CB-980008-VE	残存型枠工法「残存型枠プロテックピアスワンダー」	施工性に優れたコンクリート製残存型枠	コンクリート工	
30	CB-980118-VE	硬質地盤クリア工法	硬質地盤への矢板・杭の静的圧入工法	仮設工	活用促進技術
30	KT-980368-VE	Qマット	コンクリート用湿潤・保温養生マット	コンクリート工	活用促進技術
30	HR-990005-VE	サンタックスバンシール誘発目地材	止水機能を有するコンクリート誘発目地材	コンクリート工	活用促進技術
30	KK-070008-V	抵抗板付鋼製杭基礎(ポールアンカー100型)	道路標識柱及び道路照明柱用基礎	基礎工	準推奨技術 活用促進技術(旧)
30	KT-090057-VE	作業員装着警報感知システム「みはり組」	重機に取り付けた発信装置と作業員装着の受信装置で、危険エリアに作業員が入ると作業員と運転席の双方に警報を発する双方向式の警報補助装置	その他	
30	KK-100117-VE	タフライト	コンクリート・モルタル用ひび割れ抑制ファイバー	コンクリート工	
30	QS-120024-A	改良芝品種「エルトロ」・「ビクトール」を用いたロール芝工法	維持管理コストを抑えた上での良質なターフの形成	共通工	
30	KT-120088-VE	ゼスロック	無溶接による鉄筋締結金具(場所打ち杭/鉄筋組立用)	基礎工	
30	TH-140008-A	分解促進型タックコート工法(スーパータックゾール工法)	路面温度5℃程度の低温でも早期に分解するタックコートを実現する乳剤・促進剤・散布機械	舗装工	

平成28年3月末現在

◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆ (全ての活用型を含む)

ジョイントテックスCT-400 KT-070054-VE [活用促進]

本材料はコンクリートの打ち継ぎの際、レタンスの洗い出しが不要な材料で、従来は表面凝結遅延剤を使用した後、高圧洗浄による洗い出しを行っていた。本技術の活用により打ち継ぎ処理費用の削減、工程の短縮が期待できます。



3次元設計データを用いた 計測及び誘導システム KT-060150-VE [推奨技術]

本技術は、データコレクタに取り込んだ設計データを基に各種計算を現地で行うことで測量作業のミスを低減し作業効率を向上する測量システムである。従来は事前計算した帳票を基に作業していた。本技術の活用により高品質な施工及び人為的ミスを低減できる。



軽トラック積載対応型 屋外可搬式トイレユニット CB-100037-VE

日々の移動が伴う工事現場等で軽トラックに積載した状態で使用可能な屋外可搬式トイレユニット。従来は普通トラックに一般仮設トイレを積載して使用していたが、外観上の景観性向上と使用感、衛生面の向上、大型手摺付階段と内開きドアにより安全面の向上を図った。



とまるくん (普通車用)(大型車用) CB-080028-VE

本技術は、道路車線規制において誤って作業域に突入した車両を安全に最短に停止させる技術であり、交通誘導員及び作業員の「生命の安全と安心」を確保し、作業環境を向上させることができる技術です。



法面2号ユニバーサル ユニット自在階段 KT-090046-VE [推奨技術]

取付角度が自在に設定できるユニット式アルミ合金製階段です。昇降時の安全確保、昇降設備設置・解体時間短縮による、作業効率の大幅改善が期待できます。



Tヘッド工法鉄筋 KT-010018-VR

本技術は、コンパクトな定着体を用いた鉄筋定着工法で、過密配筋となった構造物の鉄筋組立の施工性およびコンクリートの充填性の向上が期待できる。



インテリジェントマシン コントロール油圧ショベル KT-140091-A

機体制御とICTの技術を活用したセミオート制御機能搭載油圧ショベルで、施工面がモニターに表示されるため、丁張、補助員の削減、省力化が期待できる。



ディスプレイライト (CR、ER、DV、DV-S) KK-990050-VE

均一性に優れた高品質の打継面が得られるコンクリートの打継目処理剤で、作業時期の時間制約が大幅に緩和され、効率的で確実な打継目処理作業が行えます。



3次元マシンコントロール システム3D-MC KT-990421-V

本技術は、土工事について、建設機械の排土板やスクリーンを自動で設計面通りに制御する技術で、より安全でかつ安定した品質を得ることが期待できる。



◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆ (全ての活用型を含む)

転圧管理システム GEO-PRESS(ジオプレス) KT-100006-V

本技術は、締固め機械を用いた転圧作業を回数管理するための技術で、従来はR計器などによる密度試験により、直接的な品質管理を行っていた。本技術の活用により、リアルタイムに転圧状況が把握できることで締固め密度の均一化が図れ、品質向上と効率化が期待できる。



脂肪族系鉄筋防錆剤 「サビラズ」「ハイサビラズ」 KT-150006-A

本技術は、コンクリート打継面に打継処理材を散布しコンクリート表層部を強固にする技術であり、打継面処理の作業工程を大幅に削減・簡易化できます。



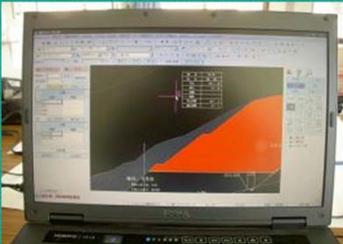
キャスプ KK-980055-VE【準推奨技術】

構造物などの基礎地盤の支持力計算に必要なパラメータを測定し、施工管理に活かす技術である。その結果を直ちに施工に反映できるので、施工の効率化と省力化が期待できる。



EX-TREND 武蔵建設CAD KK-100077-VE

本技術は、切土・盛土などの数量を自動で取得でき、集計表や塗り潰しなども簡単に行うことができるため作業効率の向上が期待できます。



ブリード・ポンド工法 KT-110001-VE【活用促進】

本技術は、コンクリート打継面に打継処理材を散布しコンクリート表層部を強固にする技術であり、打継面処理の作業工程を大幅に削減・簡易化できます。



トリガージョイント CG-080014-VE【活用促進】

本技術は、セメントの水和熱や外気温による温度変化、乾燥による収縮等の要因により不特定に発生するひび割れを、断面欠損を設ける事により人為的に特定位置にひび割れを集中させて制御し破壊を防ぎます。更に止水材の性能を有し、型砕脱型後の化粧目地にシール充填する工程を省略し漏水を防止します。



ソーラー式LED表示機 KK-100021-VE【設計比較】

発電機を使用する製品に比べ、燃料補給の労力がかからず、燃料費も不要です。また、騒音や二酸化炭素ガスの排出等、周辺環境への負荷を大きく軽減することができます。



移動式ネットワークカメラ 「モニターングミックス」 QS-110023-V【設計比較】

本技術は、遠隔地の動画をリアルタイムにインターネットへ無線で配信でき、パソコンや携帯電話で確認できます。また、各種センサーと連動可能で、見るだけの監視ではなく遠隔操作を含めた幅広い監視が可能となります。



超低騒音性様油圧ブレーカーを用いた解体・掘削工法 TH-090016-V【活用促進(旧)】

本技術は、コンクリート構造物の解体工事や岩盤掘削工事において使用される油圧ブレーカから発生する騒音を低減すること、油圧ブレーカを装着した油圧ショベルとその運転手に与える振動を低減する。



◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆ (全ての活用型を含む)

13 後方監視カメラ搭載油圧シリンダー CG-110011-VE

本技術は、油圧シリンダー後方のカウンタウエイト上部に監視カメラを搭載することで、運転者が運転席右前方のモニター画面で後方の状況を確認できる。



14 塗布型高性能収縮低減剤「クラックセイバー」 SK-080001-VE [活用促進]

本技術は、塗布型収縮低減剤をコンクリート表層に塗布・含浸することで乾燥収縮及び水分の逸散を抑制する技術である。従来は混和材料の添加や、長期間の散水を実施していたが、本技術により、コンクリートの耐久性向上に関し、コスト削減、省力化が期待できる。



15 コンクリートひび割れ低減用ネット「ハイパーネット60」 SK-080003-VE [活用促進]

本技術はコンクリート構造物に発生するひび割れを抑制する技術であり、従来にない技術である。本技術の活用により、耐久性に大きく影響する幅の広いひび割れの発生を抑制することにより、コンクリート構造物の品質の向上が期待される。



16 TS・RTK・GPSによる転圧管理システム (GPRoller) TH-100008-V

本技術は、締固め機械による締固め作業において、施工時の転圧回数並び走行軌跡をリアルタイムに測定・表示する技術である。これらのデータは、電子データとして保存・検索出力することが可能であり、締固め作業の効率化と品質の向上が見込まれる。



17 ソーラーキルゲンシリーズ KT-100078-V

本技術は太陽光を利用して2色のLEDを発光させる工事灯で、ソーラーバッテリー式にした事により二次電池を繰り返し充電できるので、電池の廃棄が無く省資源、省エネルギーが期待できる。



18 コンクリート保水養生テープ CB-110014-VE

コンクリート打設脱型後のコンクリート表面に直接貼ることにより高い湿潤状態を保つことが可能で、表面を緻密化し強度向上や中性化を抑制することができる。



19 ガードレール・ガードパイプ 自在R連続基礎ブロック CB-050040-VE [活用促進]

ガードレール、ガードパイプに使用するプレキャスト連続基礎で、M27ボルトで連結して一体化し、施工期間の短縮ができます。歩車道分離の防護柵基礎タイプと、仮設防護柵の基礎タイプがあります。



20 スーパーテールアルメ工法 QS-060012-VE

テールアルメ工法の壁面部材を大型シンプル形状とし、省力化・省資材を実現した新しい補強土壁工法です。本技術の活用により、経済性および施工性、安全性、景観性の向上が期待できます。



21 カプセルポリゾム型高輝度路上工事用標示板(工事看板) TH-070005-VE

従来技術より、製造時のCO₂排出量を、40%削減し、更に硬質の表面層を有し、路上工事用標示板として設置、撤去の繰り返しに耐え、標示機能の維持性能に期待できます。



◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆ (全ての活用型を含む)

MMA点字タイル KT-070038-VE [活用促進]

本技術は、MMA樹脂一体成型の視覚障害者誘導用点字タイルと同材質接着剤の組み合わせで、従来はコンクリート製視覚障害者誘導用ブロックで対応していた。本技術の活用により、路面掘削が不要で短時間に設置路面に直接固着でき、コスト縮減及び品質の向上が期待できる。



グレードコントロールシステム HK-100045-V [活用促進(旧)]

建設機械にセンサを取り付け、施工部の高さ(2D/3D)や位置(3D)を計算し、施工面へのガイダンスを行う。機械によっては施工板の自動制御も可能。測量・補助員などを削減し、立入禁止エリアを警告する。省力化・施工精度向上・安全性向上が期待できる。



残存型枠工法「残存型枠 プロテクト」 CB-980008-VE

本技術は、擁壁、砂防堰堤等のコンクリート構造物に用いられるコンクリート製残存型枠で、従来は脱型が必要な一般型枠で対応していた。本技術の活用により、コンクリート構造物を残存型枠工法で一貫施工でき、トータルコスト縮減が期待できる。



硬質地盤クリア工法 CB-980118-VE [活用促進]

軟岩や玉石混じり砂礫などが存在する地盤条件(硬質地盤)において、矢板や杭を圧入施工する機械およびそれを用いた工法です。機械は小型・軽量、低振動・低騒音で、矢板や杭の上を自走施工します。



3Dマット KT-980368-VE [活用促進]

コンクリート構造物の湿潤・保温養生材で、本技術の活用により保温性と保水性の向上が期待できる。



サンタツタスパンシール 誘発目地材 HR-990005-VE [活用促進]

スパンシール誘発目地材は、鉄筋コンクリート構造物に発生するひび割れを所定の位置に集中させ、漏水を防止するとともに、施工が簡単な誘発目地材です。



抵抗板付鋼製杭基礎 (ポールアンカー100型) KK-070008-V [標準新技術]

本技術は、道路付属物(道路標識柱、道路照明柱や多目的柱等)の基礎工において、軟弱地盤、狹隘(きょうあい)な場所、埋設物を避けての基礎構築が可能な工法です。基礎は鋼製杭、フランジ、抵抗板(回転防止)から構成され、専用杭打機にて迅速に施工できる工法です。



作業員装着警報感知 システム「みはり組」 KTE090057-VE

本技術は重機の後退時に近赤外線を利用し運転手と作業員双方に警告するシステムで、運転手と作業員がお互い危険回避行動に移る事ができるなど安全性の向上が期待できる。



タフカイト KK-1000117-VE

本技術は、ひび割れ抑制のため、コンクリートやモルタルに合成繊維短繊維を添加するものであり、品質の向上を図ることができる。加えて、コンクリート打ち込み時に添加する場合は、剥離片の落下を押さえることができる。



◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆
 (全ての活用型を含む)

改良芝品種「エルトロ」・「ビクトール」を用いたロール芝工法
 QS=120024-A

本技術は、改良芝品種「エルトロ」・「ビクトール」の大型ロール張芝工法で、芝が上方向に伸びず、横方向に伸びることから維持管理コスト縮減が図られると共に品質の向上が期待できる。



ゼ ス 30 ツ ク
 KT=120038-VE

本技術は、鉄筋の結束を無溶接で行う金具である。従来技術における添え鉄筋の溶接と結束の替わりに、締結金具で固定するだけの製品なので、作業が効率的である。



分解促進型タックコート工法
 (スーパータックソール工法)
 TR=140008-A

本技術は、専用散布機械を用いて、新しく開発したアスファルト乳剤と促進剤を同時散布することで、数十分を要するタイヤ付着抑制型乳剤の分解時間を数分にまで短縮する。



◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆ (施工者希望型)

●平成27年度に施工者希望型として活用された延べ新技術数1,752件のうち、活用件数上位30技術の新技術は以下のとおりです。

施工者希望型における活用件数の多い新技術(平成27年度)

順位	NETIS登録番号	技術名	副題	工種	有用な技術 (平成28年6月末現在)
1	KT-070054-VE	ジョイントテックスCT-400	洗い出し不要の打ち継ぎ処理剤	コンクリート工	活用促進技術
2	KT-060150-VE	3次元設計データを用いた計測及び誘導システム	計測及び誘導システム	調査試験	準推奨技術
3	CB-100037-VE	軽トラック積載対応型屋外可搬式トイレユニット	車載トイレ	仮設工	
4	CB-080028-VE	とまるくん(普通車用)・(大型車用)	道路工事現場での車両進入によるもらい事故防止。	道路維持修繕工	
5	KT-090046-VE	法面2号ユニバーサルユニット自在階段	ユニット型昇降設備	仮設工	推奨技術 設計比較対象技術
6	KT-010018-VR	Tヘッド工法鉄筋	過密鉄筋の施工性改善	コンクリート工	
7	KK-990050-VE	ディスパライト(CR、ER、DV、DV-S)	コンクリート打継目処理剤	コンクリート工	
7	KT-100006-V	転圧管理システム GEO-PRESS (ジオプレス)	TSやGPSを用いた、盛土工事における締固め回数の管理を行うシステム	土工	
7	KT-140091-A	インテリジェントマシンコントロール油圧ショベル	機体制御とICTの技術を活用したセミオート制御機能搭載油圧ショベル	土工	
10	KT-990421-V	3次元マシンコントロールシステム3D-MC	建設機械制御システム	土工	
11	KT-150006-A	脂肪族系鉄筋防錆剤「サビラズ」[®]「ハイサビラズ」	コンクリートとの付着を阻害しない鉄筋の防錆剤	コンクリート工	
12	KK-980055-VE	キャスポル	簡易支持力測定器	調査試験	準推奨技術
12	KK-100077-VE	EX-TREND武蔵 建設CAD	本技術は、切土・盛土などの数量を自動で取得でき、集計表や塗り潰しなども簡単にを行うことができるため作業効率の向上が期待できる。	CALS関連技術	
12	KT-110001-VE	ブリード・ボンド工法	コンクリート打継処理工法	コンクリート工	活用促進技術
15	KK-100021-VE	ソーラー式LED表示機	ソーラー充電式バッテリーによるLED文字・映像表示装置	その他	設計比較対象技術
15	QS-110023-V	移動式ネットワークカメラ「モニタリングミックス」	簡単に移動ができるネットワークカメラ、遠隔操作で広範囲をリアルタイムの動画で見れるシステム	電気通信設備	設計比較対象技術
17	CG-080014-VE	トリガージョイント	止水性能を有するコンクリートひび割れ誘発目地材	コンクリート工	活用促進技術
17	TH-090016-V	超低騒音仕様油圧ブレーカを用いた解体・掘削工法	SS-boxの開発による超低騒音化、低振動化の実現	共通工	活用促進技術(旧)
17	CG-110011-VE	後方監視カメラ搭載油圧ショベル	運転席右前方のモニタ画面で後方の安全確認ができ、ヘッドガード一体型キャブを搭載した油圧ショベル	土工	
20	SK-080001-VE	塗布型高性能収縮低減剤「クラックセイバー」	コンクリート表面層収縮低減、水分逸散抑制によるコンクリート構造物のひび割れ抑制技術	コンクリート工	活用促進技術
20	SK-080003-VE	コンクリートひび割れ低減用ネット「ハイパーネット60」	耐アルカリ性ガラス繊維ネットを用いたコンクリート構造物のひび割れ低減技術	コンクリート工	活用促進技術
20	TH-100008-V	TS・RTK-GPSによる転圧管理システム(GPRoller)	TS・RTK-GPSを用いた締固め機械の転圧管理システム	土工	
20	KT-100078-V	ソーラーキングシリーズ	太陽光を利用して2色のLEDを点滅させ、通行人や運転者等に警告を発するソーラー式工事灯	仮設工	
20	CB-110014-VE	コンクリート保水養生テープ	コンクリート表面の緻密化と強度向上に寄与するテープ	コンクリート工	
25	TH-070005-VE	カプセルプリズム型高輝度路上工事用標示板(工事看板)	路上工事用標示板向けカプセルプリズム型高輝度再帰反射シート	仮設工	
25	HK-100045-V	グレードコントロールシステム	建設機械に取り付けたセンサからの情報を組み合わせ、2D/3Dの設計データを参照しながら建設機械のコントロールやガイダンスを行い、敷均し工・法面整形工・舗装工等を行う	共通工	活用促進技術(旧)
27	KT-980368-VE	Qマット	コンクリート用湿潤・保温養生マット	コンクリート工	活用促進技術
27	KT-090057-VE	作業員装着警報感知システム「みはり組」	重機に取り付けた発信装置と作業員装着の受信装置で、危険エリアに作業員が入ると作業員と運転席の双方に警報を発する双方向式の警報補助装置	その他	
27	KK-100117-VE	タフライト	コンクリート・モルタル用ひび割れ抑制ファイバー	コンクリート工	
27	TH-140008-A	分解促進型タックコート工法(スーパータックゾール工法)	路面温度5℃程度の低温でも早期に分解するタックコートを実現する乳剤・促進剤・散布機械	舗装工	

平成28年3月末現在

◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆ (施工者希望型)

ジョイントテックスCT-400 KT-070054-VE **[活用促進]**

本材料はコンクリートの打ち継ぎの際、レタナンスの洗い出しが不要な材料で、従来は表面凝結遅延剤を使用した後、高圧洗浄による洗い出しを行っていた。本技術の活用により打ち継ぎ処理費用の削減、工程の短縮が期待できます。



3次元設計データを用いた 計測及び誘導システム KT-060150-VE **[準推奨技術]**

本技術は、データコレクタに取り込んだ設計データを基に各種計算を現地で行うことで測量作業のミスを低減し作業効率を向上する測量システムである。従来は事前計算した帳票を基に作業していた。本技術の活用により高品質な施工及び人為的ミスを低減できる。



軽トラック積載対応型 屋外可搬式トイレユニット CB-100037-VE

日々の移動が伴う工事現場等で軽トラックに積載した状態で使用可能な屋外可搬式トイレユニット。従来は普通トラックに一般仮設トイレを積載して使用していたが、外観上の景観性向上と使用感、衛生面の向上、大型手摺階段と内開きドアにより安全面の向上を図った。



とまるくん (普通車用)(大型車用) CB-080028-VE

本技術は、道路車線規制において誤って作業域に突入した車両を安全に最短に停止させる技術であり、交通誘導員及び作業員の“生命の安全と安心”を確保し、作業環境を向上させることができる技術です。



法面2号ユニバーサル ユニット自在階段 KT-090046-VE **[推奨技術]**

取付角度が自在に設定できるユニット式アルミ合金製階段です。昇降時の安全確保、昇降設備設置・解体時間短縮による、作業効率の大幅改善が期待できます。



Tヘッド工法鉄筋 KT-010018-VR

本技術は、コンパクトな定着体を用いた鉄筋定着工法で、過密配筋となった構造物の鉄筋組立の施工性およびコンクリートの充てん性の向上が期待できる。



デノスパライト (CR、ER、DV、DV-S) KK-990050-VE

均一性に優れた高品質の打継面が得られるコンクリートの打継目処理剤で、作業時期の時間制約が大幅に緩和され、効率的で確実な打継目処理作業が行えます。



転圧管理システム GEO-PRESS (ジオプレス) KT-100006-V

本技術は、締めめ機構を用いた転圧作業を回数管理するための技術で、従来はFll計器などによる密度試験により、直接的な品質管理を行っていた。本技術の活用により、リアルタイムに転圧状況が把握できることで締めめ密度の均一化が図れ、品質向上と効率化が期待出来る。



インテリジェントマシン コントロール油圧ショベル KT-140091-A

機体制御とICTの技術を活用したセミオート制御機能搭載油圧ショベルで、施工面がモニターに表示されるため、丁張、補助員の削減、省力化が期待できる。



◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆ (施工者希望型)

3次元マシンコントロール システム3D-MC KT-990421-V

本技術は、土工事について、建設機械の排土板やスクリーンを自動で設計面通りに制御する技術で、より安全かつ安定した品質を得ることが期待できる。



脂肪族系鉄筋防錆剤 「サビラズ」「ハイサビラズ」 KT-150006-A

本技術は、コンクリート打継面に打継処理材を散布しコンクリート表層部を強固にする技術であり、打継面処理の作業工程を大幅に削減・簡易化できます。



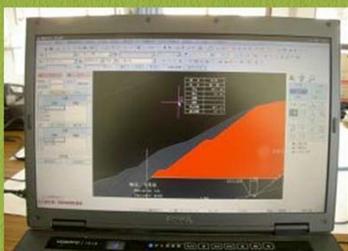
キャスパー KK-980055-VE【準推奨技術】

構造物などの基礎地盤の支持力計算に必要なパラメータを測定し、施工管理に活かす技術である。その結果を直ちに施工に反映できるので、施工の効率化と省力化が期待できる。



EX-TREND(武蔵)建設CAD KK-100077-VE

本技術は、切土・盛土などの数量を自動で取得でき、集計表や塗り潰しなども簡単に行うことができるため作業効率の向上が期待できます。



ブリド・ボンド工法 KT-110001-VE【活用促進】

本技術は、コンクリート打継面に打継処理材を散布しコンクリート表層部を強固にする技術であり、打継面処理の作業工程を大幅に削減・簡易化できます。



ソーラー式LED表示機 KK-100021-VE【設計比較】

発電機を使用する製品に比べ、燃料補給の労力がかからず、燃料費も不要です。また、騒音や二酸化炭素ガスの排出等、周辺環境への負荷を大きく軽減することができます。



移動式ネットワークカメラ 「モニタリングミックス」 QS-110023-VE【設計比較】

本技術は、遠隔地の動面をリアルタイムにインターネットへ無線で配信でき、パソコンや携帯電話で確認できます。また、各種センサーと連動可能で、見るだけの監視ではなく遠隔操作を含めた幅広い監視が可能となります。



トリガー・ジョイント CG-080014-VE【活用推進】

本技術は、セメントの水和熱や外気温による温度変化、乾燥による収縮等の要因により不特定に発生するひび割れを、断面欠損を設ける事により人為的に特定位置にひび割れを集中させて制御し破損を防ぎます。更に止水材の性能を有し、型枠脱型後の化粧目地にシール充填する工程を省略し漏水を防止します。



超低騒音仕様油圧ブレーカ を用いた解体・掘削工法 TH-090016-VE【活用促進(旧)】

本技術は、油圧ブレーカを用いた解体・掘削作業にて発生する騒音・振動による周辺環境・労働環境問題の改善に対応する超低騒音仕様SS-box油圧ブレーカを用いた解体・掘削工法です。本技術の活用により省コストにて環境に優しく快適な作業空間を提供することが期待できる。



◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆ (施工者希望型)

後方監視カメラ搭載
油圧ショベル
CG-110011-VE

本技術は、油圧ショベル後方のカウンタウエイト上部に監視カメラを搭載することで、運転者が運転席右前方のモニター画面で後方の状況を確認できる。



塗布型高性能収縮低減剤
「クラックセイバー」
SK-080001-VE [活用促進]

本技術は、塗布型収縮低減剤をコンクリート表面に塗布・含浸することで乾燥収縮及び水分の逸散を抑制する技術である。従来は混和材料の添加や、長期間の散水を実施していたが、本技術により、コンクリートの耐久性向上に関し、コスト削減、省力化が期待できる。



コンクリートひび割れ低減用
ネット「ハイパーネット60」
SK-080003-VE [活用促進]

本技術はコンクリート構造物に発生するひび割れを抑制する技術であり、従来にない技術である。本技術の活用により、耐久性に大きく影響する幅の広いひび割れの発生を抑制することにより、コンクリート構造物の品質の向上が期待される。



TS・RTK-GPSによる転圧
管理システム (GPRoller)
TH-100008-V

本技術は、締固め機械による締固め作業において、施工時の転圧回数並び走行軌跡をリアルタイムに測定・表示する技術である。これらのデータは、電子データとして保存・帳票出力することが可能であり、締固め作業の効率化と品質の向上が見込まれる。



ソーラーキングシリーズ
KT-100078-V

本技術は太陽光を利用して2色のLEDを発光させる工事灯で、ソーラーバッテリー式にした事により二次電池を繰り返し充電できるので、電池の廃棄が無く省資源、省エネルギーが期待できる。



コンクリート保水養生テープ
CB-110014-VE

コンクリート打設脱型後のコンクリート表面に直接貼ることにより高い湿潤状態を保つことが可能で、表面を緻密化し強度向上や中性化を抑制することができる。



カプセルブリス型高輝度
路上工事用標示板(工事看板)
TH-070005-VE

従来技術より、製造時のCO₂排出量を、40%削減し、更に硬質の表面層を有し、路上工事用標示板として設置、撤去の繰り返しに耐え、標示機能の維持性能に期待できます。



グレードコントロールシステム
HK-100045-V [活用促進(旧)]

建設機械にセンサを取り付け、施工部の高さ(2D/3D)や位置(3D)を計算し、施工面へのガイダンスを行う。機械によっては施工板の自動制御も可能。測量・補助員などを削減し、立入禁止エリアを警告する。省力化・施工精度向上・安全性向上が期待できる。



Qマツ
KT-980368-VE [活用促進]

コンクリート構造物の湿潤・保温養生材で、本技術の活用により保湿度と保温性の向上が期待できる。



◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆ (施工者希望型)

作業員装着警報感知システム「みはり組」 KT-090057-VE

本技術は重機の後退時に近赤外線を利用し運転手と作業員双方に警告するシステムで、運転手と作業員がお互いの危険回避行動に移る事ができるなど安全性の向上が期待できる。



タフライン KK-100117-VE

本技術は、ひび割れ抑制のため、コンクリートやモルタルに合成繊維製短繊維を添加するものであり、品質の向上を図ることができる。加えて、コンクリート打ち込み時に添加する場合は、剥離片の落下を押さえることができる。



分解促進型タックコート工法 (スーパータックゾール工法) TH-140008-A

本技術は、専用散布機械を用いて、新しく開発したアスファルト乳剤と促進剤を同時散布することで、数十分を要するタイヤ付着抑制型乳剤の分解時間を数分にまで短縮する。



◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆ (発注者指定型)

●平成27年度に発注者指定型としてとして活用された延べ新技術数420件のうち活用件数上位37技術の新技術は以下のとおりです。

発注者指定型における活用件数の多い新技術(平成27年度)

順位	NETIS登録番号	技術名	副題	工種	有用な技術 (平成28年6月末現在)
1	QS-060012-VE	スーパーテールアルメ工法	補強材の最適配置と壁面材の大型化を実現した補強土壁工法	共通工	
2	CB-050040-VE	ガードレール・ガードパイプ 自在R連続基礎ブロック	ガードレールカーブ対応型連続基礎	付属施設	活用促進技術
2	QS-120024-A	改良芝品種「エルトロ」・「ビクトール」を用いたロール芝工法	維持管理コストを抑えた上での良質なターフの形成	共通工	
4	KK-070008-V	抵抗板付鋼製杭基礎(ポールアンカー100型)	道路標識柱及び道路照明柱用基礎	基礎工	準推奨技術 活用促進技術(旧)
5	CB-980118-VE	硬質地盤クリア工法	硬質地盤への矢板・杭の静的圧入工法	仮設工	活用促進技術
5	KT-070038-VE	MMA点字タイル	視覚障害者誘導用MMA樹脂製点字タイル	付属施設	活用促進技術
7	KT-990459-VE	自走式土質改良機	移動型改良工法対応機(SR-P600/SR-P1200/SR-G2000/SR2000G)	土工	設計比較対象技術
8	KK-020061-V	アデムウォール	多機能で耐久性に優れたジオテキスタイル補強土壁	共通工	準推奨技術 活用促進技術(旧)
8	SK-060003-V	プレガードⅡ	プレキャストガードレール基礎	付属施設	準推奨技術 設計比較対象技術
10	KT-010117-VE	ミストグリッブ	溶融噴射式カラー塗装	舗装工	
10	QS-110002-V	アジャストーン	砕石場の副産物を規格化するとともに、コンクリート塊の再利用を促進した材料である	共通工	
10	KT-120088-VE	ゼスロック	無溶接による鉄筋締結金具(場所打ち杭/鉄筋組立用)	基礎工	
13	CB-980012-V	パワーブレンダー工法(スラリー噴射方式)	浅層・中層混合処理工	共通工	推奨技術 設計比較対象技術
13	CB-980023-VE	ソイルクリート工法	簡易吹付のリ砕工	共通工	活用促進技術
13	KT-980205-V	エポコラム工法(地盤改良工法)	エポコラム-Loto工法(大口径φ2,500地盤改良工法)	共通工	準推奨技術 設計比較対象技術
13	TH-990034-VE	緑化テールアルメ(テラトレールF2,テラヴェール)工法	緑化補強土壁工法	共通工	
13	KT-990309-VE	SEEE永久グラウンドアンカー工法タイプアンカーU型	タイプアンカーU型/タイプアンカーM型	共通工	
13	KT-990542-V	合成樹脂製多孔管 孔多くん	浅層埋設が可能な電線ケーブル地中化方式	共同溝工	活用促進技術(旧)
13	CB-010039-V	強社雑草抑止用防草シート「チガヤシート」	チガヤ、ススキ、アシ、ヨシ、セイタカアワダチソウ等の強社雑草を完全抑止できる防草シート	道路維持修繕工	設計比較対象技術
13	QS-030004-VE	リベスジョイント工法	路床・路盤工にFe石灰系処理材を用いた長寿命化舗装	舗装工	
21	KK-980008-V	角型直接段積電線管 角型TAGレックス	多条配管用 角型直接段積み管路材による省施工化	共同溝工	
21	CB-980025-V	ダイブラハウエル管による道路下カルバート工の設計・施工方法(高耐圧ポリエチレン管)	-	共通工	準推奨技術 設計比較対象技術
21	CB-980048-VE	エポ工法	人孔鉄蓋後付・修繕工法	付属施設	
21	CB-980093-V	地山補強土『PAN WALL(バンウォール)工法』	安全な逆巻き施工による急勾配斜面安定工法/表面保護工にコンクリート板を用いた地山補強土工法	共通工	設計比較対象技術
21	KT-980135-VE	LDis(エルディス)工法	低変位高圧噴射攪拌工法	共通工	準推奨技術 活用促進技術
21	KT-980624-VE	FCB工法	気泡混合軽量土を用いた軽量盛土工法	土工	
21	HR-990005-VE	サンタックスバンシール誘発目地材	止水機能を有するコンクリート誘発目地材	コンクリート工	活用促進技術
21	KT-990247-VE	KTB・引張型SCアンカー工法	防錆性能の優れた引張型アンカー工法	共通工	
21	KK-020004-VE	ライン導水ブロック-F型	小型水路内蔵型歩車道境界ブロック	付属施設	活用促進技術
21	KK-030022-VE	ざぶとんわく裏込め工	法面における地山の不陸整形工	共通工	
21	QS-030044-V	スチール透水蓋工法	排水性舗装におけるスチール透水蓋を用いた側溝改造工法	道路維持修繕工	設計比較対象技術
21	QS-040016-VE	SEEE/KIT受圧板	グラウンドアンカー用鋼製受圧板	共通工	活用促進技術
21	CG-050010-V	INSEM-SBウォール工法	砂防ソイルセメント工法(INSEM工法)による堤体内部材と機能性に優れた外部保護材を組み合わせた複合構造形式の砂防えん堤工法	砂防工	
21	CB-050039-V	グレーチングホルダー	グレーチング飛散(跳ね上がり)防止金具	道路維持修繕工	設計比較対象技術
21	KT-050086-V	ツイン・ブレードミキシング工法	中層混合処理工法	共通工	準推奨技術 設計比較対象技術
21	KT-080004-V	乾式ワイヤーソーイング工法	切削用冷却水を使用せず、汚泥も発生させないワイヤーソー切断工法	共通工	
21	QS-130016-VE	固まる簡易舗装材 カタマSP	鉄鋼スラグを用いた散水・転圧で固まる簡易舗装材	舗装工	活用促進技術

平成28年3月末現在

◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆ (発注者指定型)

スーパーテールアルメ工法 QS-060012-VE

テールアルメ工法の壁面部材を大型シンプル形状とし、省力化・省資材を実現した新しい補強土壁工法です。本技術の活用により、経済性および施工性、安全性、景観性の向上が期待できます。



ガードレール・ガードパイプ 自在R連続基礎ブロック CB-050040-VE [活用促進]

ガードレール、ガードパイプに使用するプレキャスト連続基礎で、M27ボルトで連結して一体化し、施工期間の短縮ができます。歩車道分離の防護柵基礎タイプと、仮設防護柵の基礎タイプがあります。



改良芝品種「エルトロ」・「ピクトール」を用いたロール芝工法 QS-E120024-A

本技術は改良芝品種「エルトロ」・「ピクトール」の大型ロール張芝工法で、芝が上方向に伸びず、横方向に伸びることから維持管理コスト縮減が図られると共に品質の向上が期待できる。



抵抗板付鋼製杭基礎 (ポールアンカー100型)

KK-070008-V [準推奨技術]

本技術は、道路付属物(道路標識柱、道路照明柱や多目的柱等)の基礎工において、脆弱地盤、狭隘(きょうあい)な場所、埋設物を避けての基礎構築が可能な工法です。基礎は鋼製杭、フランジ、抵抗板(回転防止)から構成され、専用杭打機にて迅速に施工できる工法です。



硬質地盤タワ工法

CB-980118-VE [活用促進]

軟岩や玉石混じり砂礫などが存在する地盤条件(硬質地盤)において、矢板や杭を圧入施工する機械およびそれを用いた工法です。機械は小型・軽量、低振動・低騒音で、矢板や杭の上を自走施工します。



MMA点字タイル

KT-070038-VE [活用促進]

本技術は、MMA樹脂一体成型の視覚障害者誘導用点字タイルと同材質接着剤の組み合わせで、従来はコンクリート製視覚障害者誘導用ブロックで対応していた。本技術の活用により、路面掘削が不要で短時間に設置路面に直接固着でき、コスト縮減及び品質の向上が期待できる。



自走式土質改良機

KT-990459-VE [設計比較]

建設発生土の有効利用、現場内利用の促進を目的に開発した自走式土質改良機で、本技術の活用により、作業性・改良品質の向上と、作業時の粉塵発生を抑制した周辺環境に配慮した施工が期待できる。



アデムウォール

KK-020061-V [準推奨技術]

アデムを配置して補強した盛土(補強盛土体)と壁面材とを变形吸収層を介して一体化させた二重壁構造。「壁面勾配の調整」「壁面あと施工による壁面変形の抑制」「センサー機能による盛土の健全度評価」「壁面の補修・取替え」等が可能な、多機能な補強土壁工法。



プレガードⅡ

SK-060003-V [準推奨技術]

ガードレール設置に利用するプレキャスト製ブロック基礎である。車両用防護柵が設置される擁壁の設計法を満足できる二次製品の基礎擁壁である。



◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆ (発注者指定型)

ミッドグリップ KT-010117-VE

本技術は、路面に塗料を塗布することにより、カラー化することができ視認性が向上し、車両・歩行者及び自転車等の交通を円滑に誘導することが出来る。また、通行区分が明確化され安全性が向上します。



アジャスト QS-L10002-V

本技術は、砕石場の岩ズリ等を破碎、調整(フルイ選別・コンクリートガラを配合調整)した製品である。安定した品質として建設副産物の再利用や地域環境への影響抑制を目的とした製品である。



ゼスロック KT-120088-VE

本技術は、鉄筋の結束を無溶接で行う金具である。従来技術における添え鉄筋の溶接と結束の替わりに、締結金具で固定するだけの製品なので、作業が効率的である。



パワーブレンダー工法 (スラリー噴射方式) CB-980012-VE [推奨技術]

トレンチャー式攪拌機を改良機本体に装着して改良材(セメント系固化材等)を対象地盤中にスラリー噴射しながら攪拌混合する工法です。改良深度は最大13m程度(実績13.9m)可能です。



ソイルグリー工法 CB-980023-VE [活用促進]

従来へのり砕工の高価な型枠を使用せず、簡易的な組立枠(ガッター・タイザー)を使用することにより、大幅なコスト削減を可能にした型枠不要の現場打ち吹付のり砕工である。



エポコラム工法 (地盤改良工法) KT-980205-VE [準推奨技術]

本技術は、エポコラム翼(複合相対回転翼)を使用して、現位置土とセメント系スラリーの固化材とを機械攪拌して、ソイルセメントコラムを築造する工法である。従来技術に対してコスト削減・工期の短縮が実現した。



緑化テーパーメ(テラトレールF2,テラボール)工法 TH-990034-VE

本技術は、壁面部材の軽量化ならびに簡素化により、従来技術と比較して大幅なコストダウンになり、仮設構造物としての適用も増加している。従来技術に比べて、環境に適した自然な景観性と優れた経済性が実現可能。



SEEE永くグラウンドアンカー 工法タイプルアンカーU型 KT-990309-VE

アンカー材を細径化したナット定着圧縮型永くグラウンドアンカー工法である。従来は高腐食環境下の使用を想定していたため材料径大きくなり工事費も高価となる問題があった。本技術の活用により材料が細径化・軽量化され、経済的なアンカー工事を実施できる。



合成樹脂製多孔管 孔多くん KT-990542-VE [活用促進(旧)]

本技術は、道路等の地下空間を活用して、電気・電話・通信ケーブルなどをコンパクトにまとめて収容するユニット式の新しい管路システムである。省人・省力化が実現でき、浅層埋設が可能で、非常にコンパクトな構造物であるため、開削面積が少なくて済む。



◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆ (発注者指定型)

強壮雑草抑止用防草シート「チガヤシート」 CB-010039-VE [設計比較]

雑草の発生を防ぐための技術であり、従来は対症的に年2回程度の草刈りに対応していた。本技術の活用により、長期的視点での雑草管理の手間の軽減、雑草(産業廃棄物)処分量の削減などの効果が期待できる。



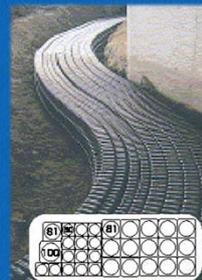
リベートジョイント工法 QS-039004-VE

本技術は、構築路床としてFe石灰処理土、上層路盤(下部)に粒調Fe処理材、上層路盤(上部)に瀝青安定処理や大粒径アスコンまたは砕石等を舗装し、舗装の長寿命化・道路交通振動の低減を図る工法です。



角型直接段積電線管 角型TACレックス KK-989008-V

角型と円筒が交互に連続成形された、難燃性の角型直接段積電線保護管です。管を直接段積みすることが可能で非常にコンパクトな配管ができ、省スペースが実現できます。また、軽量かつ可とう性があり、接続も容易で施工性に優れています。



ダイプラハウエル管による道路下カルバートの設計・施工方法(高耐圧ポリエレン管) CB-980025-V [準推奨技術]

道路下カルバート工にダイプラハウエル管を用いることにより、工事費のコスト削減及び工期の削減による施工性・経済性の向上が可能となります。



工務五法 CB-980048-VE

本技術は、舗装工事区間に埋設されている人孔鉄蓋の高さ調整や取替において、舗装工事前に人孔上部を撤去して規定の仮蓋を設置することにより、人孔上部の突起がない状態で、掘削、切削、舗装材料の敷き均し、転圧等の各種作業を連続機械化施工で支障なく行うことが可能になる工法である。



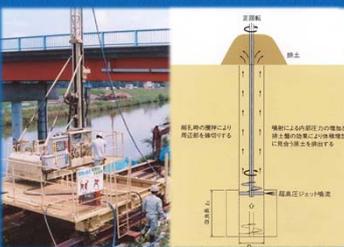
地山補強土『PAN WALL (パンウォール)工法』 CB-980093-V [設計比較]

本技術は、比較的切土高さの高い地山をプレキャストコンクリートパネルと補強材を使用した安全かつ段階的な(1段の切り下がりが高さ1.2m)逆巻き施工によって急こう配斜面を築造する。



LDis(エルディス)工法 KT-980135-VE [準推奨技術]

高圧噴射工法と機械攪拌工法を併用する周辺地盤変位低減型の高圧噴射地盤改良工法で、周辺地盤の変位低減、排泥低減、コスト削減が期待出来る。



FCB工法 KT-980624-VE

本技術は、セメント・細骨材・水及び気泡から構成される気泡混合軽量土を軽量盛土材として用いており、スラリー状のモルタル(あるいはミルク)にあらかじめ発泡させた気泡を混入して作製する。



サンタックスパフシール 誘発目地材 HR-990005-VE [活用促進]

スパフシール誘発目地材は、鉄筋コンクリート構造物に発生するひび割れを所定の位置に集中させ、漏水を防止するとともに、施工が簡単な誘発目地材です。



◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆ (発注者指定型)

21 KTB・引張型SCアンカー工法 KT-990247-VE

本技術は、「全素線エポキシ樹脂塗装PC鋼より線」をテンドンに使用することによって、防錆性能を飛躍的に高めた引張型グラウンドアンカー工法である。テンドンの組立加工が工場でも現場でも容易にでき、地盤条件に合わせて調整が可能な構造のため施工が容易。



21 ライン導水ブロック-F型 KK-020004-VE [活用促進]

縁石に排水機能を持たせた側溝です。路面の雨水をスリットにより集水するので路面溢水を防止することにより車両による水はねを抑制出来ます。また、街渠エプロン部が不要となることにより路側まで路面横断勾配が一定となり二輪車の走行安全性が確保出来ます。



21 ざぶとんわく裏込め工 KK-030022-VE

本技術は、クリップ金網、平鋼を用いた裏込め工専用の型枠で、地山の凹凸が10cm以上の場合や鋭角で不均一な場合で、モルタルの吹付け厚さが大きくなって足場や支保工を必要とせず各種擁壁にざぶとんわくをコンクリートアンカーと中間金網を結束することで容易に取り付けられる。



21 スチール透水蓋工法 QS-030044-V [設計比較]

排水性舗装や透水性舗装の修繕工事に付帯する側溝改造に威力を発揮します。従来工法に比べ単純な工法のため、大幅な工期の短縮と現場管理等安全性を含め多くのメリットがあります。完成後は側溝上が舗装で覆われ、車や人、車椅子等快適で安全な通行が確保できます。



21 SEEF/KIT受圧板 QS-040016-VE [活用促進]

本技術は、斜面安定・地すべり抑制に用いられるグラウンドアンカー用の反力体である。角形鋼管を井形に組み合わせ底面に鋼板を張り合わせた構造であり、受圧面積がやや小さく比較的硬質な地盤に対応するKITクロスタイプと、受圧面積が大きく軟質地盤に対応するKITセミスクエアタイプの2種類がある。



21 INSEM-SBウォール工法 CG-050010-V

INSEM工法により構築した堤体内部材と上下流面の外部保護材(軽量鋼矢板、コンクリートブロック)を組み合わせることで、土石流対策えん堤、砂防えん堤等の要求性能を確保し、現地発生土砂の有効活用による環境負荷の低減および設計・施工の合理化を実現した工法である。



21 グレーチングホルダー CB-050039-V [設計比較]

既設のグレーチングに本製品を取り付けるだけで、簡単にグレーチング蓋の跳ね上がり防止が可能である。工期も大幅に短縮でき経済性、作業性とも飛躍的に向上します。



21 ツイン・ブレードミキシング工法 KT-050086-V [準推奨技術]

本技術は、縦型回転攪拌装置を用いた中層混合処理工法で、従来は、スラリ-攪拌工(2軸施工)で対応していた。本技術の活用により、1セットあたりの改良面積が増加して、工程が短縮し経済性が向上する。



21 乾式ワイヤーソーイング工法 KT-080004-V

本技術は、コンクリート構造物をワイヤーソーイングにて切断する際、切削用冷却水を使用しないで行う工法である。切削汚泥を流すことができない場所(海、河川等)での施工が可能である。



◆九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆ (発注者指定型)

固まる簡易舗装材 カタマSP QS-130016-VE [活用促進]

本材料は、簡易舗装材で、鉄の製造過程で発生する高炉水砕と製鐵スラグを100%リサイクル利用し、スラグ特有の水と反応して固まる省エネルギー、省資源に優れた材料です。



◆九州に登録され九州に本社を置く業者により開発された
 新技術のうち、九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆
 (全ての活用型を含む)

●平成27年度の活用延べ新技術数153件のうち、全62技術の新技術は以下のとおりです。

九州に登録され九州に本社を置く業者により開発された新技術のうち、
 九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術(平成27年度)

順位	NETIS登録番号	技術名	副題	工種	有用な技術 (平成28年6月末現在)
1	QS-110023-V	移動式ネットワークカメラ「モニタリングミックス」	簡単に移動ができるネットワークカメラ、遠隔操作で広範囲をリアルタイムの動画で見れるシステム	電気通信設備	設計比較対象技術
2	QS-030044-V	スチール透水蓋工法	排水性舗装におけるスチール透水蓋を用いた側溝改修工法	道路維持修繕工	設計比較対象技術
2	QS-120019-VE	ブッシュチョッパー&アースシェーバー	雑草雑木の粉碎及び回収装置	河川維持	活用促進技術
4	QS-110002-V	アジャストーン	砕石場の副産物を規格化するとともに、コンクリート塊の再利用を促進した材料である	共通工	
4	QS-130020-VR	マンガ安全建設看板	ストーリー漫画標識ユニット	仮設工	
6	QS-050019-VE	サイクルハンマー工法(ロータリーテーブル式)	超高周波型エアサイクルビットによるロータリーテーブル式大口径掘削	基礎工	活用促進技術
6	QS-080024-V	星型プラスチックペーサ	コンクリートのひび割れ誘発を抑制し、ジャンカ発生の原因とならないプラスチックペーサ	建築	
6	QS-100022-VE	GIロラム工法	軟弱地盤処理工(スラリー攪拌工)	共通工	活用促進技術
9	QS-030004-VE	リベスジョイント工法	路床・路盤工にFe石灰系処理材を用いた長寿命化舗装	舗装工	
9	QS-110005-V	横帯ブロック	横帯工用埋設型枠ブロック	河川海岸	活用促進技術(旧)
11	QS-090004-V	WILL工法(スラリー振動攪拌工)	中層混合処理工法	共通工	設計比較対象技術
11	QS-140005-A	小口止用サイドブロック	小口止用ブロックの積み上げによる安全性、施工性の向上	河川海岸	
13	QS-100020-V	防音タイプ油圧ブレーカ	TNB静音ブレーカ(USシリーズ)による静音化建設工事の実現	共通工	
13	QS-110027-VE	ブロックPコン	塩害・腐食性環境におけるコンクリート構造物の型枠組立締結具(海岸、河川、水中、地下構造物等)	コンクリート工	活用促進技術
13	QSK-110003-VE	浚渫作業用汚濁防止枠	浚渫作業用汚濁防止装置	港湾・港湾海岸・空港	
13	QS-130010-A	ハンドガイド式草刈機ブッシュカッタージョージ	操縦者の安全性を向上させたハンドガイド式草刈機	河川維持	
13	QS-150028-A	PC横帯エブロック「横ばな」	省力化・省人化・効率施工 プレキャスト横帯エブロック	河川海岸	
18	QS-980106-V	カメレオン	多自然護岸工	河川海岸	
18	QS-980144-V	KCライン側溝	街路型落蓋側溝、街路型自由勾配側溝	共通工	
18	QS-980217-VE	KCフォーム	GRC製側溝埋設型枠	コンクリート工	
18	QS-000013-V	MIT工法(CMSシステム)	中圧噴射機械攪拌工法	共通工	設計比較対象技術
18	QS-080003-V	鉄筋損傷防止型防護柵	既設橋梁用防護柵の取替え工法	付属施設	設計比較対象技術
18	QS-090001-VE	Dコラム工法	機械攪拌式スラリー工法	共通工	
18	QS-090025-VE	国産環境型レンガ	【火山灰及び浄水廃土を利用した保水透水舗装レンガ】	舗装工	
18	QS-100004-V	お陰石(RC-40)	人工再生クラッシュラン(石灰灰・廃石膏等を利用したもの)	舗装工	
18	QS-110041-A	KCスタンドフォーム	高性能FRC製埋設型枠	コンクリート工	
18	QSK-110002-VE	水運船航監視システム	バーゼ船押航遠隔監視システム	港湾・港湾海岸・空港	
18	QS-120011-VE	生コン車温度抑制対策「ファームバリア」プラス	生コン車ドラムの遮熱、温度上昇抑制による暑中コンクリートの品質低下防止策	コンクリート工	
29	QS-980053-VR	超軟弱土固化処理工法 マッドミキサーM-I型	マッドミキサーM-I型	共通工	
29	QS-980054-VR	超軟弱土固化処理工法 マッドミキサーM-II型	マッドミキサーM-II型	共通工	活用促進技術
29	QS-980212-V	CTB工法	法面削削システム	共通工	
29	QS-020007-V	情報BOX用鉄蓋のハイジャスター工法	高流動性無収縮モルタルの流し込み工法	共同溝工	活用促進技術(旧)
29	QS-030051-V	Gr-L型擁壁	車両用防護柵基礎一体型プレキャストL型擁壁	共通工	設計比較対象技術
29	QS-050008-V	エアキッド工法	鉄筋挿入工における全エア駆動二重管式削孔工法	共通工	設計比較対象技術
29	QS-050011-V	グラベル工法	団粒効果による法面侵食防止および植生促進	共通工	設計比較対象技術
29	QS-070009-V	ケラタ	「多自然川づくり」に最適な覆土工法用ブロック	河川海岸	
29	QS-070010-V	土路コン 景観土舗装	一般の生コン工場材料を混練するため品質偏差が少なく、ソフトかつ耐久性の高い土系舗装(改良土舗装)	公園	設計比較対象技術
29	QS-070019-VE	貼紙・落書き予防コーティング剤「Pioシリーズ」	貼紙予防と落書き予防の両方に対応できるコーティング剤	道路維持修繕工	
29	QS-070021-V	レインスルー	透水性アスファルト舗装埋設蓋	共通工	設計比較対象技術
29	QSK-070003-V	ケーソン製作用BS工法	ケーソン製作用安全化工法(内型枠組立組外・マス内清掃)	港湾・港湾海岸・空港	
29	QS-080002-V	緑化基盤材「サンケイエコソイル」	焼酎かすと木くずを利用した完熟肥料成分入り緑化基盤材	共通工	
29	QS-090023-VE	マグファイバー工法	自然色防草土吹付工法	共通工	
29	QS-090030-VE	モルタル吹付層の水抜き穴補強筋	モルタル吹付層の水抜き穴周辺のひび割れ抑制及び水抜きパイプ固定用鉄筋	共通工	
29	QS-090040-VE	アクアドレーン	スリット穴付き埋設型枠と排水性舗装による既設側溝暗渠化工法	共通工	活用促進技術
29	QS-100009-V	環境対策機能を搭載した防振防音タイプさく岩機 [略称: TOKU防振RD]	振動障害予防対策を配慮し、低振動化・低騒音化の実現	共通工	
29	QS-100012-A	スーパロックEX工法	小型機によるアースオーガ特殊ビット併用岩盤掘削工法	基礎工	
29	QS-100017-A	トランスEX工法	維持管理性に優れた透明材導水樋工法	道路維持修繕工	
29	QS-100024-V	IDジョイント	新機能誘発目地	コンクリート工	
29	QS-110006-VR	FAボックス	セグメント型プレキャストコンクリート製斜角大型ボックスカルバート及びびうイングウォール	共通工	活用促進技術
29	QS-110007-A	ガードクリフ	ガードレール基礎一体型L型擁壁	共通工	
29	QS-110013-A	空中窒素固定菌誘導型緑化工法	綿状短繊維緑化基材を用いた空中窒素自然供給誘導システムによる植生工	共通工	
29	QS-110021-A	マサコート(遮熱・断熱・抗菌の水性塗料)	遮熱、断熱性に加え、酸化チタンの光触媒による抗菌効果(防汚性)を有する多機能水性塗料。	建築	
29	QS-110022-VE	TVセンサー安全監視システム	監視カメラの動画の画像処理による安全監視システム	電気通信設備	
29	QS-110039-A	応力集中型 鋼製防護柵「FLEMREE」フレンビー	現場状況に合わせてフレキシブルに対応する橋梁用ビーム型防護柵	付属施設	
29	QS-120015-A	リピッカ	既設視線誘導車線分離柵に被せられるだけで、汚染された既設視線誘導車線分離柵の機能回復ができる。	付属施設	
29	QS-130008-A	WCS 工法	加水制御型自走式土質改良機による砂防ソイルセメント(INSEM法)製造機械	砂防工	
29	QS-130018-A	Fe石灰ライト	泥土・発生土用土質改良材	土工	
29	QS-130037-A	ピット側溝	蓋版の種類を自由に換えることができ、底版調整コンクリートの施工が容易な自由勾配側溝	共通工	
29	QS-140013-A	湿式ポリマーセメントモルタルの品質管理試験器「やわらか管理くん」	ポリマーセメントモルタルの品質を現場で簡易かつ短時間に測定	コンクリート工	
29	QS-150004-A	作業者接近検知システム	検知機を搭載した建設機械と、ICタグを装着した作業者の双方に接近(危険)を警告するシステム。	その他	
29	QS-150012-A	グーリッド	即日開放蓋版	共通工	
29	QSK-150003-A	自律水温制御パイプクーリングシステム「WIT P-Cool 3A」	自律水温制御機能を有するマスコンクリートのパイプクーリングシステム	港湾・港湾海岸・空港	

平成28年3月末現在

◆九州に登録され九州に本社を置く業者により開発された
 新技術のうち、九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆
 (全ての活用型を含む)

移動式ネットワークカメラ
 「モニタリングミックス」
 QS-110023-V [設計比較]

本技術は、遠隔地の動画をリアルタイムにインターネットへ無線で配信でき、パソコンや携帯電話で確認できます。また、各種センサーと連動可能で、見るだけの監視ではなく遠隔操作を含めた幅広い監視が可能となります。



スチール透水蓋工法
 QS-030044-V [設計比較]

排水性舗装や透水性舗装の修繕工事に付帯する側溝改造に威力を発揮します。従来工法に比べ単純な工法のため、大幅な工期の短縮と現場管理等安全性を含め多くのメリットがあります。完成後は側溝上が舗装で覆われ、車や人、車椅子等快適で安全な通行が確保できます。



ブッシュチョッパー
 &アースシェーバー
 QS-120019-VE [活用促進]

道路、法面、河川敷の竹やぶ、雑草や雑木(φ10cmまで)を、0.45m3級のバックホウにブッシュチョッパーを装着し、1cm~20cmに粉碎する。搬出が必要な場合は、アースシェーバー(集積ボックス)を装着することで、直接ダンプに積み込みができる。



アジャストーン
 QS-116002-V

砕石場の岩ズリ等を破砕、調整(フルイ選別・コンクリートガラを配合調整)した製品である。安定した品質そして建設副産物の再利用や地域環境への影響抑制を目的とした製品である。



マンガ安全建設看板
 QS-130020-VR

安全啓発に使用する看板で、汚れが付きにくく耐久性に優れたマグネットシートになっており、マンガストーリーによりKY活動や地域住民への交通安全、工事への理解などを得る為の製品である。



サイクルパンマー工法
 (ロータリーテーブル式)
 QS-050019-VE [活用促進]

土留工などの杭打設において、硬質地盤を削孔する工法です。超高周波型サイクルビットの開発により、硬質地盤を微振動衝撃破砕する方式のため、削孔速度が速く、格段の工期短縮が図れます。



星型プラスチックスペーサ
 QS-080024-V

鉄筋接合部とそれから放射状に伸びた5もしくは6本の足部からなる形状のプラスチックスペーサであり、コンクリートのジャンカ発生の原因とならず、又、コンクリートとの熱膨張率の差で誘発されるコンクリート表面のひび割れは既存ドーナツの1/2以下に大幅に軽減される。



GIコラム工法
 QS-100022-VE [活用促進]

小型の地盤改良機で大型機並みの改良径・改良長(改良径φ1600・改良長20m)まで、ロッドの継ぎ切り無しで施工可能です。軟弱地盤中にスラリー状のセメント系固化材を注入しながら、土と固化材を機械的に混合攪拌し、良質な改良地盤を形成する工法です。



リベースジョイント工法
 QS-030004-VE

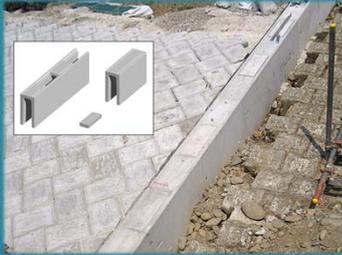
本技術は、構築路床としてFe石灰処理土、上層路盤(下部)に粒調Fe処理材、上層路盤(上部)に瀝青安定処理や大粒径アスコンまたは砕石等を舗設し、舗装の長寿命化・道路交通振動の低減を図る工法です。



◆九州に登録され九州に本社を置く業者により開発された
 新技術のうち、九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆
 (全ての活用型を含む)

横帯ブロック
 QS-110005-V [活用促進(旧)]

河川護岸において、延長方向の一定区間毎に横帯工を設け、護岸の変位や破損が他に波及しないよう絶縁するためのコンクリート二次製品。



WML工法
 (スラリー+揺動攪拌工)
 QS-090004-V [設計比較]

本技術は、地表より8m以内の軟弱粘性土地盤からN値40までの砂質土地盤にスラリー状のセメント系固化材等を注入しながら、リボンスクリーper攪拌機の中で固化材と原位置土を上下左右に攪拌混合する(揺動攪拌)ことで、安定した改良体を形成する。



小口止用サイドブロック
 QS-140005-A

河川護岸及びブロック積み擁壁の小口止に使用するブロックである。型枠設置、撤去が不要なので、ブロック積みとほぼ同時に施工でき、施工性、安全性の向上が期待できる。また、積みブロックを施工する重機で設置可能である。



防音タイプ油圧ブレーカ
 QS-100020-V

本技術は、コンクリート構造物の解体工事や道路・ダム・トンネルの岩盤掘削工事において使用される油圧ブレーカから発生する騒音を低減する。



プロテックアコン
 QS-110027-VE [活用促進]

本製品は、セラミックス製の丸セパレータ用型枠締結具です。従来のプラスチックコーンの穴跡埋めモルタルでの防錆対策を、セラミックスリーブの孔にエラストマー製埋込み栓を押し込み密閉することにより、止水性を高め、漏水・塩害・抜け落ちの不安を解決した。



浚渫作業用汚濁防止枠
 QSK-110003-VE

グラブ式浚渫船等の作業船により水底の土砂や底泥を浚渫する際、グラブバケットの接触による汚濁防止カーテンの損傷を防ぐ浚渫作業用汚濁防止装置を提供する。



ハンドガイド式草刈機
 ブッシュカッタージョージ
 QS-180010-A

本技術はハンドガイド式草刈機に、操縦部の水平維持制御装置や刈取部のスライド装置を装備した事で、危険要素が低減し、安全かつ効率的に作業を行う事が出来る。



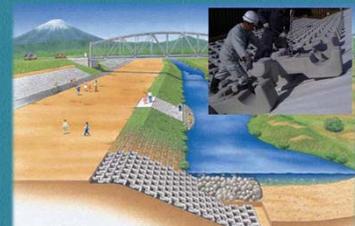
PC横帯工「ブロック横づな」
 QS-150028-A

本技術は、横帯工を現場打ちコンクリートから二次製品とした。型枠設置・撤去が不要で、コンクリート打設も不要となり省力化・省人化・施工性の向上が期待できる。



カメレオン
 QS-980106-V

カメレオンはT型ブロックの噛み合わせで護岸を形成できる工法です。また、治水性(スクラム効果)、環境性(豊かな空隙)、施工性(連結金具不要)を兼ね備えた柔構造の多自然護岸工法であり、水替え不要の水中施工が可能である。



◆九州に登録され九州に本社を置く業者により開発された
 新技術のうち、九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆
 (全ての活用型を含む)

KCライン側溝
 QS-980144-V

縁石が側溝本体に大きく乗る構造のため、側溝内断面の大きさに関わらず、路肩部(500mm)の位置に道路外側白線が明確に引ける構造です。



KCフォーム
 QS-980217-VE

道路側溝の暗渠化工事で従来の金属製波板などに変わり、GRC製埋設型枠を用い現場打ちコンクリートスラブを施工するものです。



MITSE工法(CMSシステム)
 QS-000013-V [設計比較]

小型ベースマシンによるスラリー中圧噴射と拡散防止板付き攪拌翼の二つの攪拌システムを採用した中深層地盤改良工法です。小型の機械で最大深度2.3m、最大1600mmの円柱状の改良体を作成することができます。



鉄筋損傷防止型防護柵
 QS-080003-V [設計比較]

橋梁の既設地覆を再利用して防護柵の取替えを行う際に、アンカー用削孔等で地覆鉄筋を損傷させる事無く設置可能な防護柵です。支柱ベースを拡張式にし、ベースのアンカーボルト用孔を長孔にする事で、穿孔時の鉄筋損傷問題を解消しました。



Dコラム工法
 QS-090001-VE

本技術は、深層混合処理工及び軟弱地盤処理工における機械攪拌式スラリー工法の一つで、スラリー状のセメント系固化材を特殊攪拌機の掘削翼取付部に設けた噴射口から地盤中に注入し、原位置土と機械的に攪拌混合することにより地盤中に柱状の安定した均質な改良体(ソイルセメントコラム)を築造する。



国産環境型レンガ
 QS-090025-VE

火山灰及び浄水廃土を利用し、省エネ窯により焼成した保水透水舗装用レンガ。



お陰石(RC-40)
 QS-100004-V

本技術は、遠方のセメント会社に運んでいた石炭灰と、安定型処分場に廃棄されていた石膏ボード由来の廃石膏を主原料として、自社で開発したプラントにて人工骨材を造り、コンクリート塊・アスファルトコンクリート塊と混合・破碎・分級して100%リサイクルの人工再生クラッシャーを製造する。



KCスライドフォーム
 QS-110041-A

本技術はFRC製埋設型枠であり、現場打ちコンクリートとの付着性能等が向上した為、砂防堰堤の埋設型枠、橋梁の落橋防止装置の残存型枠に使用できる。



土運船運航監視システム
 QSK-10002-VE

押船の位置情報、航海情報や固有情報のほか、周辺海上の波浪や風の画像情報、押航中のバジ船や積荷の画像情報をリアルタイムに把握可能なバジ船押航運航監視システム。



◆九州に登録され九州に本社を置く業者により開発された
 新技術のうち、九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆
 (全ての活用型を含む)

生コン車温度抑制対策
 『ファームバリア』プラス
 QS-120011-VE

夏場の生コンクリートの品質を安定させる為、生コン車ドラムを遮熱塗装し輸送中の外気温が生コンクリート温度に影響しないようにする暑中コンクリート対策技術。



超軟弱土固化工法
 マッドミキサーM-I型
 QS-980053-VR

バックホウに超ロングブームアームと特殊攪拌機を装備し、軟弱土と固化材を連続的に機械混合し、土と固化材を化学反応させ、土質性状を安定したものにすると共に、強度を高める工法です。



超軟弱土固化工法
 マッドミキサーM-II型
 QS-980054-VR [活用促進]

バックホウに超ロングブームアームと特殊攪拌機(マッドミキサーM-II)を装備し、軟弱土と固化材を連続的に機械混合し、土と固化材を化学反応させ、土質性状を安定したものにすると共に、強度を高める工法です。



CTB工法
 QS-980212-V

削孔機(CTBタワー)の上部及び下部にワイヤーロープを繋ぎ法面上に自立させ削孔を行う。ワイヤーロープはスナッチを介して手巻きのウィンチに繋がっており、削孔機の移動と反力確保の役目を持つ。足場設置の必要が無い。



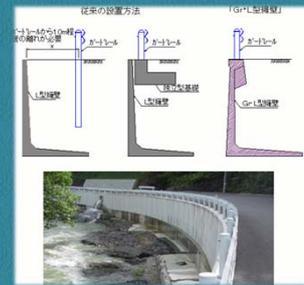
情報BOX用鉄蓋の
 ハイジャスター工法
 QS-020007-V [活用促進(旧)]

本工法は情報BOX用鉄蓋の据付け作業を容易にさせるとともに、従来発生していた蓋又は受枠ごとのがたつきや路面との段差による不具合を防止できるため、道路の一部の構造物として安全性の向上を図ることができる。



GR-L型擁壁
 QS-030051-V [設計比較]

たて壁部分に種別B種またはC種の車両用防護柵支柱を設置するための基礎を一体成型し、衝突荷重に対する擁壁の安定性、強度および車両用防護柵が持つ車面の誘導性能や路外逸脱防止性能を実車衝突試験で確認したプレキャストL型擁壁である。



エアキッド工法
 QS-050008-V [設計比較]

法面や自然斜面の安定化工法として用いられる鉄筋挿入工の施工において効率的な削孔が行える軽量小型の全エア駆動削孔機「エアキッドAK-O1」によるポーリング技術。



グラベル工法
 QS-050011-V [設計比較]

グラベルを吹き付けると、イオンによる土の凝集効果で、法面の侵食を防止し、種子を混入することにより、植生を促進します。またグラウンド等に散布すると、防塵効果を発揮します。



ケスタ
 QS-070009-V

「多自然川づくり」に最適な覆土工法用ブロックで、高水護岸用ケスタI型、低水護岸用ケスタII型があります。ブロック表面には縦横のリブがあり、覆土の流出を抑制する効果があります。また、ケスタII型は工法の簡略化を追求したこれまでにない新しい形の覆土ブロックです。



◆九州に登録され九州に本社を置く業者により開発された
 新技術のうち、九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆
 (全ての活用型を含む)

土路ゴ景観土舗装

QS-070010-V [設計比較]

土や砂などの自然材料に高炉セメントと無機系UC硬化剤を加えて攪拌混合することで耐久性に富んだ土系舗装を作る工法です。一般の生コン工場を利用して材料を混合することにより、安定した品質の土系舗装を全国各地で施工することが可能です。



貼紙・落書き予防
 コーティング剤「Pioシリーズ」

QS-070019-VE

貼紙・落書き予防コーティング剤、固形油脂をベースに変性シリコン等を混合し、粘着剤、接着剤の貼紙付着を阻害して剥離を容易にする。また、撥水機能があるため、落書きペイント類の定着を阻害し、除去を容易にする。



レインスルー

QS-070021-V [設計比較]

本技術は、既存の側溝を有効利用し、その上に透水性（排水性）舗装を施工するための埋設蓋である。高強度の蓋とすることで既設側溝をそのまま活用し、上面を透水性（排水性）舗装で覆うことが可能となる。



ケーソン製作用BS工法

QS-070003-V

港湾施設（防波堤・岸壁・護岸等）に採用されているコンクリート製のケーソン製作時における安全化等を図った技術である。従来の内型枠と内足場を改良し独自の方法で内型枠組立組外の作業を行い。また、専用コンドラを用いマス内清掃を行い安全施工・工期短縮省人化等を目的に開発した。



緑化基盤材

「サンケイエコソイル」

QS-080002-V

本技術は、厚層基材吹付工、客土吹付工、公園植栽工、道路植栽工によるリサイクル緑化基盤材（資材）。植物の生長に必要な土壌分（堆肥、黒土、軽石）と肥料分を一体として混合、製造しているため、施工の際にも安定し品質の確保が容易になる。



マグファイバー工法

QS-090023-VE

本技術は、細骨材にマサ土、黒土、シラス等の自然土を使用することで、仕上がりが自然な土色となり、地面被覆工が自然景観に溶け込み易くなる。



モルタル吹付工

水抜き穴補強筋

QS-090030-VE

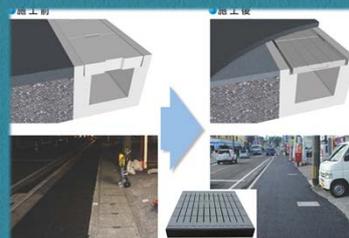
水抜き穴補強筋は、モルタル吹付層の水抜き穴からのひび割れの発生を抑制するとともに水抜きパイプを地山に密着するように所定の角度に固定し、地山の水抜き効果を向上させるためモルタル吹付層の劣化抑制・品質向上及びのり面の安定化に寄与する。



アクアドレン

QS-090040-VE [活用促進]

既設の側溝にアクアドレン（スリット穴付き埋設型枠）を設置し、その上に排水性舗装を敷設することで、既設側溝を暗渠化します。どのような現場にも対応出来る鉄筋レジンコンクリート製のアクアドレンRと、鉄筋高強度コンクリート製のアクアドレンCがあります。



環境対策機能を搭載した防振防音タイプ

さく岩機[略称: TOKY防振RD]

QS-100009-V

本技術は、振動防止機能と騒音防止機能の両方の性能を備えています。振動値の削減効果により作業者の身体的負担が軽減でき、作業者の手腕に対する振動障害対策に有効である。



◆九州に登録され九州に本社を置く業者により開発された
 新技術のうち、九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆
 (全ての活用型を含む)

20
 スーパーロックEX工法
 QS-100012-A

スーパーロック工法は大口径ボーリング工法による岩盤掘削を低コスト・工期短縮に成功しました。自走を可能とし、足回りはラバーキャタピラを装着しており道路を傷めません。道路・河川等様々な工事に適用し、小規模仮設で施工可能です。



20
 トランスEX工法
 QS-100017-A

材料が安価で施工も容易であり、漏水対策及び目地部周辺の小規模なコンクリート片の落下防止を同時に兼ねるため、コスト低減を図れる。取付は躯体にアンカーで固定するだけであり、覆工面の切削が不要なため、施工が早く、夜間の短時間施工などにも最適である。



20
 IDジョイント
 QS-100024-V

コンクリート構造物の宿命とも云われる、ひび割れを計画的に発生させ且つ、防水機能を持たせると共に発生させた内部ひび割れの充填をも可能にした誘発目地材です。



20
 FAボックス
 QS-110006-VR [活用促進]

3分割されたプレキャスト部材と現場打ちコンクリートを併用することにより、大断面ボックスを構築する工法で、工期短縮、省人化を可能とする。頂版、側壁を分離構造(セグメント化)とすることで、斜角を有する現場への標準対応も可能となった。



20
 ガードレール
 QS-110007-A

L型擁壁とガードレール基礎を分離構造として別々に施工していたものをL型擁壁とガードレール基礎を一体型にすることにより、コスト削減と施工の短縮が図れる。また、工場二次製品であり品質が安定している。



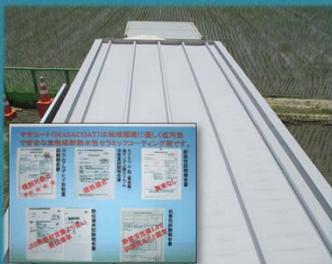
20
 空中窒素固定菌誘導型
 緑化工法
 QS-110013-A

法面緑化技術に関し、化学肥料を使用せずに竹繊維を用いて、窒素固定菌を誘導、増殖されることにより大気中の窒素が供給され緑化を促進する空中窒素固定菌誘導技術である。



20
 マサコート(遮熱・断熱・
 抗菌の水性塗料)
 QS-110021-A

遮熱・断熱・抗菌の多機能型水性塗料マサコートである。この材料は、中空セラミックと酸化チタンをドープさせることによって光触媒の効果と遮熱、断熱の効果を同時に作用させる。



20
 TVセンサー(安全監視
 システム)
 QS-110022-VE

本技術は、監視カメラ画像上に設定された危険エリアへの侵入物を自動的に検知し、警報を発するシステム装置です。従来は、危険箇所の表示や目視確認等で対応していました。本技術の活用により、安全監視に関する省力化と信頼性向上が期待できます。



20
 応力集中型(鋼製防護柵
 「FLEMBEE」フレンビー)
 QS-110039-A

本技術は、鋼製防護柵のアンカーボルトへの影響(負荷)を改善した支柱構造である。車両用防護柵としての機能である「強度」「安全性」を発揮しながら、現場状況に合わせて高さをフレキシブルに設定できる。



◆九州に登録され九州に本社を置く業者により開発された
 新技術のうち、九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術◆
 (全ての活用型を含む)

29
 ツピツカ
 QS-120015-A

本技術は、既設視線誘導車線分離標の「排気ガス汚染・紫外線による劣化」対策として、被せるだけで既設視線誘導車線分離標の機能回復ができ、合わせて道路景観の向上も図れる。



WCS工法
 QS-130008-A

本技術は、砂防ソイルセメント (INSEM材) 製造において、機械内で現地発生土に自動計量したセメントを添加し、さらに加水制御システムにより水を自動計量添加し、混練して製造する工法である。自走式であり施工ヤード内での移動が容易である。



Fe石灰ライト
 QS-130018-A

Fe石灰ライトは、生石灰と酸化鉄をベースにした非セメント系の土質改良材で、高含水比の泥土や建設発生土などの軟弱土の改良に優れた効果を発揮するだけでなく、酸化鉄の化学変化によって改良土の再生効果で盛土材としての再利用が可能である。



29
 ツツ側溝
 QS-130037-A

本技術は、自由勾配側溝で蓋版とU形の側溝本体をプラスチック製の連結ピンにて現場で運動する施工方式にしたことにより、底板調整コンクリートの施工が容易で、且つ蓋版をニーズに応じた形状にすることが可能なため、諸条件への対応が可能である。



湿式ポリマーセメントモルタルの
 品質管理試験器『やわらか管理くん』
 QS-140013-A

本技術は、PCMの品質管理指標をモルタルフロー試験のフロー値から回転翼型粘土計で得られるせん断力の評価に変えた。試験器に必要なコンクリート台 (150kg) が不要となった。品質管理可能なタイミングを、練混ぜ直後のみから練混ぜ製造後何分たっても品質管理可能に変えた。



29
 作業者接近
 検知システム
 QS-150004-A

本技術は、検知機を搭載した建設機械に、ICタグを装着した作業員が全方位で任意の距離に近づくと、運転手・作業者の双方に接近 (危険) を警告するシステムである。なお、建設機械間の接近を警告することも可能である。



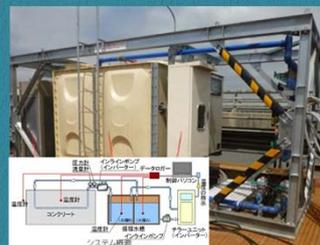
29
 クーリング
 QS-150012-A

本技術は、無収縮モルタルによる固定によりガタつきが防止でき、短時間での交通解放が可能となる。三角断面形状とすることで、無収縮モルタルが充填しやすく空気が抜け、隙間ができない構造となっている。寸法を自由設定できることから、様々な二次製品側溝、現場打ち側溝へ対応可能。



29
 自立水温制御パイプクーリングシステム
 『WIT P-Cool 3A』
 QSK-150003-A

本技術は、コンクリートの温度および外気温の変動に応じて、冷却水の水温を自律的に制御するパイプクーリングシステム。氷投入等の強制冷却が不要なため、省力化および施工性の向上。また、コンクリート発熱が終了した後の不要な冷却を防止できる等のことにより温度ひび割れ抑制の確実性が工場する。



◆有用な新技術の検索と閲覧方法◆

NETIS 新技術情報提供システム
New Technology Information System

NETISとは | 新技術の検索 | 新技術の最新情報 | 新技術の申請方法 | NETISのRSS 配信 BSS サイトマップ

平成28年6月現在

NETIS維持管理支援サイト
点検・維持管理に資する技術を広く情報提供することで、点検・維持管理の現場における活用を支援します。

NETIS震災復旧・復興支援サイト
震災復旧・復興に資する技術を広く情報提供することで、震災復旧・復興の現場における活用を支援します。

NETISとは
国土交通省は、新技術の活用のため、新技術に関する情報の共有及び提供を目的として、新技術情報提供システム(New Technology Information System:NETIS)を整備しました。NETISは、国土交通省のイントラネット及びインターネットで運用されるデータベースシステムです。
パンフレット:公共工事等における新技術活用システム
パンフレット:公共工事等における新技術活用システム(開発者、施工者、コンサルタント向け)

◎「公共工事における新技術活用システム」について、この度改定を行い、平成26年4月1日より運用しますので、関係文書を掲載します。
○公共工事等における新技術活用の促進について 平成26年度
○「公共工事等における新技術活用システム」実施要領について 実施要領別紙

新技術情報の登録件数他
評価情報:1455件 申請情報:9828件
推奨技術(27件) 準推奨技術(60件) 評価促進技術(10件) 活用促進技術(150件)
旧実施要領での技術の位置付け
活用促進技術(旧)X66件 設計比較対象技術(236件) 少実績優良技術(21件)

新技術の検索
キーワード入力
検索
評価情報 申請情報
検索
OR条件(同義語検索)
AND条件、OR条件とは...

有用な新技術の選択
推奨技術 準推奨技術 評価促進技術 活用促進技術
旧実施要領での技術の位置付け
活用促進技術(旧) 設計比較対象技術 少実績優良技術

キーワードで検索できます。

各種新技術の登録件数を表示しています。各件数は定期的な増減します。

工種や条件で検索できます。

チェックして検索すると、有用な技術が表示されます。

◆有用な新技術の検索と閲覧方法◆

ものづくり 日本大賞	国土技術 開発賞	建設技術 審査証明 ※	他機関の 評価結果	有
技術名称	〇〇〇〇工法		事後評価未実施技術	登録No. QS-●●●●●●
事前審査	事後評価		技術の位置付け(有用な新技術)	
	試行実証評価	活用効果評価	推奨技術	準推奨技術
			評価促進技術	活用促進技術
				★
			平成27年度～ 旧実施要領における技術の位置付け	
			活用促進技術(旧)	設計比較対象技術
				少実績優良技術
			適用期間等	
			評価促進技術 H27.5.1～	
上記※印の情報と以下の情報は申請者の申請に基づき掲載しております				
概要 従来技術との比較 特許・審査証明 単価・施工方法 問合せ先・その他 詳細説明資料				
活用の効果				
比較する従来技術 △△△△工法				
項目	活用の効果		比較の根	
経済性	<input type="checkbox"/> 向上(%)	<input type="checkbox"/> 同程度		
工程	<input type="checkbox"/> 短縮(%)	<input checked="" type="checkbox"/> 同程度		
	<input type="checkbox"/> 上	<input checked="" type="checkbox"/> 同程度		
安全性	<input type="checkbox"/> 向上	<input checked="" type="checkbox"/> 同程度		
施工性	<input type="checkbox"/> 向上	<input checked="" type="checkbox"/> 同程度	<input type="checkbox"/> 低下	
周辺環境への影響	<input checked="" type="checkbox"/> 向上	<input type="checkbox"/> 同程度	<input type="checkbox"/> 低下	目地からの植生、低明度製品のため、周辺環境との調和が図れる。
その他、技術の アピールポイント等	深目地部に堆積した土砂からの植生、不規則なブロック面形状、低明度のブロックにより、周辺環境との調和が図れる。			
コストタイプ	発散型:C(-)型			

事前審査、事後評価について「有」をクリックすると結果を閲覧できます。

有
click

有用な技術に指定されている場合は★印が表示されています。

従来技術の確認ができます。

閲覧したい項目をクリックします。【従来技術との比較】には、新技術開発者が一般的な条件での従来技術を設定し、新技術との比較を行った場合の効果および根拠などが掲載されています。

◆活用促進型 [試行] (概要) ◆

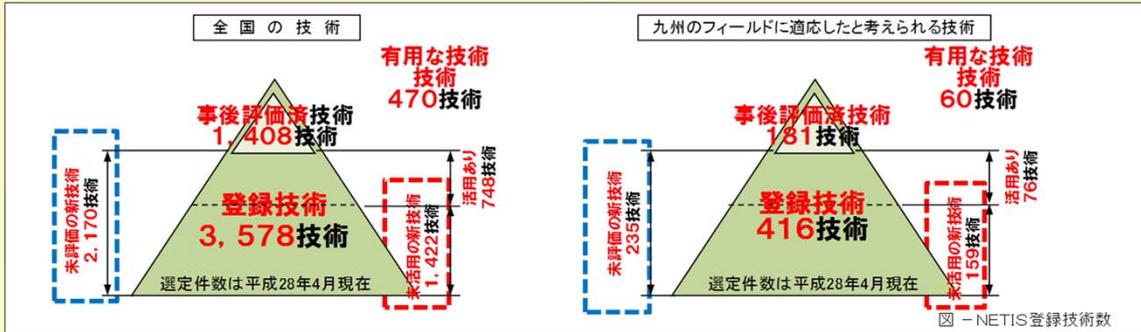
1. 背景

(1) NETISへ登録された新技術は公共工事等へ活用され、事後評価の実施により、有用な新技術の活用促進と技術のスパイラルアップを推進しています。しかし、現状ではNETIS登録技術約3,500技術の内、未評価の新技術が約2,200技術あり、未活用の新技術が約1,400技術となっています。

(2) 九州のフィールドに適応したと考えられる技術(軟弱地盤、シラス、火山災害対策等)416技術の内、未評価の新技術が235技術あり、未活用の新技術が約159技術となっています。

注) 件数は平成28年4月現在

図 - NETIS登録技術数



2. 目的

九州のフィールドに適応した新技術を積極的に活用するために、未評価の新技術(軟弱地盤、シラス、火山災害対策等)を優先的に活用し、すみやかに事後評価を行う「活用促進型[試行]」を実施しています。これにより、九州のフィールドに適応した新技術の技術革新(より品質の高い製品・より安価な製品等の開発)を促進させます。

3. 対象新技術

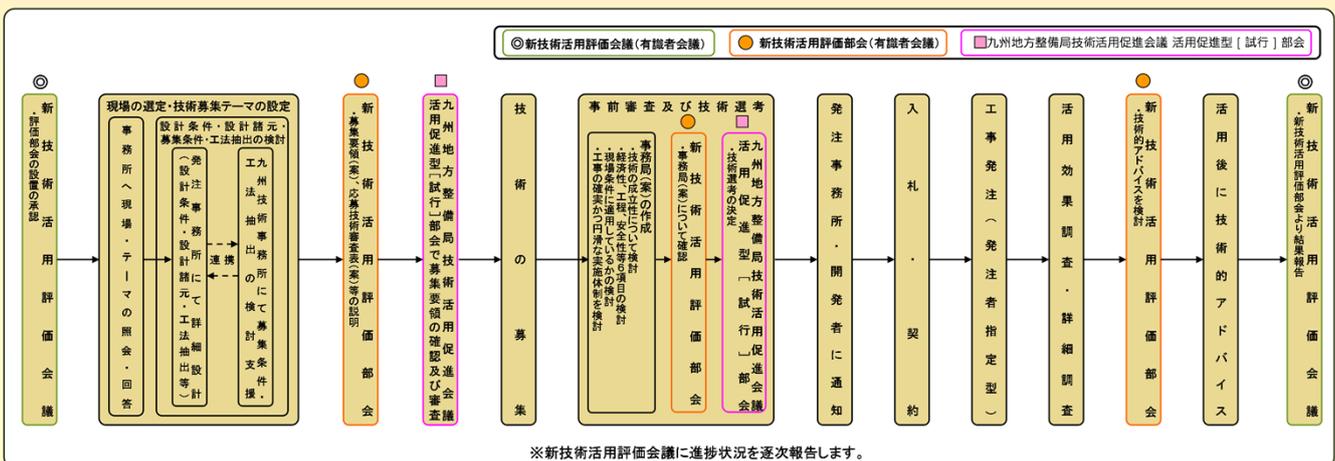
NETIS登録の中で未評価技術を対象とします。
※未評価技術：事後評価未実施技術

4. 対象工種

対象工種は、九州のフィールドに適応した新技術とし、主な工種は以下のとおりとします。

- ・地盤処理関連工種：共通工(軟弱地盤処理工、深層混合処理工)
- ・シラス関連工種：共通工(法面工)、舗装工(ブロック舗装工)、仮設工、材料等
- ・火山対策関連工種：砂防工(山腹工)、付属施設(道路植栽工、防護柵設置工)、共通工(擁壁工)、材料等

5. 活用促進型 [試行] フロー図

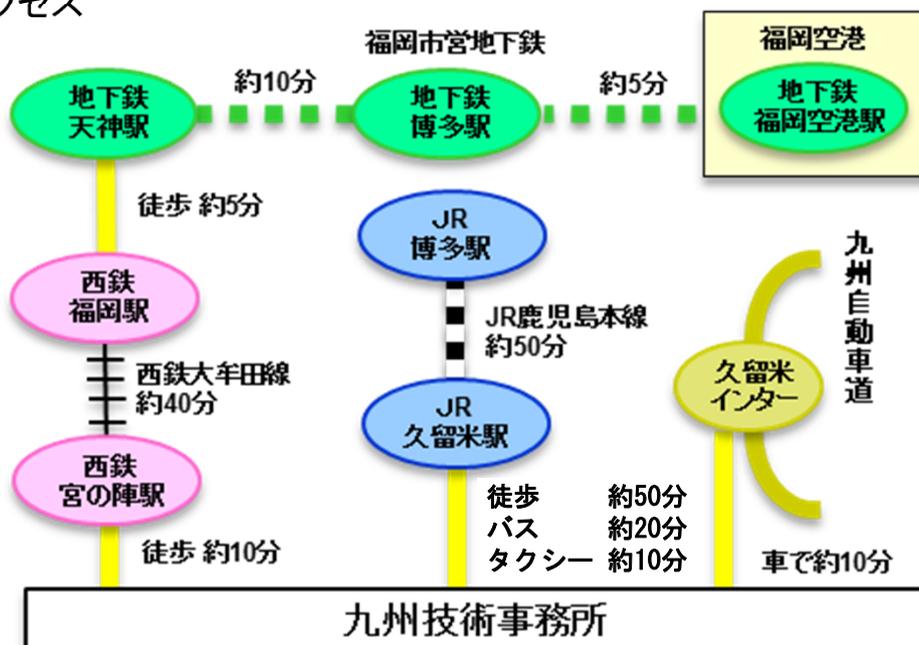


● 事務所のご案内 ●

案内図



交通アクセス



久留米インターから車で 約10分
 JR久留米駅からタクシーで 約10分
 バスで 約20分
 西鉄宮の陣駅から徒歩で 約10分



国土交通省九州地方整備局
九州技術事務所
 (九州防災・火山技術センター)

〒830-8570 福岡県久留米市高野1丁目3番1号
 TEL: 0942-32-8245 FAX: 0942-32-8295
 E-mail kyugi-netis@qsr.mlit.go.jp
 ホームページアドレス <http://www.qsr.mlit.go.jp/kyugi/>